

## CSR報告2010

CSRホーム

CSR報告2010

トップコミットメント

CSRマネジメント

CSRの考え方

アンリツのCSR達成像

達成像1

安全・安心で快適な社会構築への貢献

達成像2

グローバル経済社会との調和

達成像3

地球環境保護の推進

達成像4

コミュニケーションの推進

2009年度の実績、  
2010年度の目標

事業概要

第三者意見

第三者意見を受けて

編集方針



## CSR報告2010

CORPORATE SOCIAL RESPONSIBILITY REPORT 2010

### 達成像1 安全・安心で快適な社会構築への貢献

- お客さまへのサービス
- 社会的課題への積極的対応
- 企業ブランドの確立
- ハイライト2010

### 達成像2 グローバル経済社会との調和

- コンプライアンスの定着
- リスクマネジメントの推進
- サプライチェーンマネジメント
- 人権の尊重と多様性の推進
- 人材育成
- 労働安全衛生
- 社会貢献活動の推進
- ハイライト2010

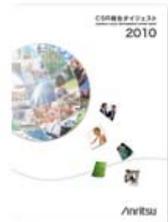
### 達成像3 地球環境保護の推進

- エコマネジメント、エコマインド
- エコオフィス、エコファクトリー
- エコプロダクツ開発
- サプライチェーンマネジメントの推進
- アンリツグループ環境負荷マスマランス(09年度)
- サイト別環境データ集(09年度)
- 環境会計(09年度)
- 環境管理活動の歴史
- ハイライト2010

### 達成像4 コミュニケーションの推進

- ステークホルダーとのコミュニケーション
- ハイライト2010

### CSR報告2010ダウンロード



CSR報告2010ダイジェスト

[過去の報告を見る](#)

## トップメッセージ

CSRホーム

CSR報告2010

トップコミットメント

CSRマネジメント

CSRの考え方

アンリツのCSR達成像

達成像1

安全・安心で快適な社会構築への貢献

達成像2

グローバル経済社会との調和

達成像3

地球環境保護の推進

達成像4

コミュニケーションの推進

2009年度の実績、

2010年度の目標

事業概要

第三者意見

第三者意見を受けて

編集方針

## トップコミットメント

誠と和と意欲をもって、  
新たな価値創造へ。

## 「誠と和と意欲」こそ、アンリツのCSR

アンリツが本格的なCSR経営に乗り出したのは2004年のことでした。当時、私はCSR担当役員として導入と推進にあたり、社員へのメッセージで、近江商人が高道徳とした「売り手よし」「買い手よし」「世間よし」「三方よし」からCSRの意義を紐解きました。しかし昨今の社会情勢を勘案すると、売り手・買い手・世間だけにとどまらず、「社員よし」と「環境よし」を加えてこそ、一人前の企業として認められるのではないかと。これが私のCSRの現状認識となっています。

そして、何よりも根底にあるのは、あらゆることに誠心誠意を尽くし「和」を大切にするという、アンリツ115年の歴史を貫く経営理念『誠と和と意欲』であり、それこそが、アンリツのCSRの原点です。

## 衆知を集めたイノベーション活動で、社会の安全と安心に貢献

この経営理念のもと、アンリツは社会にどのように貢献していくのか。そのキーワードとなるものが、経営ビジョンに掲げる「イノベーション」です。イノベーションは多くの場合、技術革新としてとらえられていますが、私はイノベーションを「破壊と創造」と理解しています。アンリツグループは、情報通信、食品・医薬品、精密機器など、いずれも社会の安全と安心につながる、多岐にわたる分野で事業を営んでいます。こうした事業で社会に貢献できるのも自社のサステナビリティ、すなわち「利益ある持続的成長」があつてこそと言えます。しかし、グローバル経済社会での競争を勝ち抜くのは容易なことではありません。既成の枠組みから脱して、蓄積してきたノウハウ・技術を新たな視点でとらえ直す。組織内に留まらず、お客さま、お取引先さままで含めた「知」を融合し、新たな価値に高める。こうした取り組みによってイノベティブな商品やビジネスモデルを創造していくことが重要です。

例えば、情報通信ネットワークは、社会の矛盾や格差を解消し、社会を変革していくドライバーになりうるものです。現在地球の人口は約69億人ですが、情報化社会の恩恵に浴しているのは、わずか18億人規模と言われています。わたしたちアンリツは情報格差を解消するだけでなく、情報化社会がもたらす人間性豊かな社会システムの創造、発展に貢献することができると考えています。全社を挙げたイノベーション活動で、社会の安全と安心に貢献し、利益ある持続的な成長につなげていきます。

## グローバルな行動指針で事業展開

こうした企業経営で忘れてはならないのが、公明正大な事業活動であり、それを実践する源泉は、社員一人ひとりのコンプライアンス意識です。当社は社員の行動指針として、「アンリツグループ企業行動憲章」を制定し、具体的な活動のあり方を明示した行動規範を策定しています。アンリツグループは、計測事業をはじめ、産業機械事業、精密計測事業、光デバイス事業などほとんどの事業をグローバルに展開しています。現在、社員の4割は日本国外で働いており、計測グループの売上高の7割は日本国外のお客さまによるものです。お客さま、お取引先さまが世界各国に広がるなか、全世界の社員共通の行動指針が必要となり、当社がグローバル・コンパクトに賛同することは自然のなりゆきでした。アンリツグループ社員一人ひとりが、企業行動憲章、グローバル・コンパクトに自らの考え方、行動を照らし合わせ検証していく。この姿勢を根付かせていきます。

## 多くのステークホルダーの皆さまに愛され、支え続けられるために

イノベーションの創出、コンプライアンスの徹底。いずれも一人ひとりの社員のモチベーション、意識にかかわってきます。しかしながら昨年度、当社では企業存続をかけて、雇用調整を含む辛い施策を取らざるを得ませんでした。厳しい環境を乗り越えた今だからこそ、社員に働くことの誇りや思い入れを深めてもらうことが大切です。個々がハツラツとして働き、輝ける。一人ひとりが成長実感を持てる会社にしていくために、新たな一歩を踏み出さなければなりません。2015年に当社は創業120周年を迎えます。長い間、多くのステークホルダーの皆さまに愛され、支え続けられてきたからこそこの伝統と歴史です。アンリツのこのDNAを未来に紡いでいくために、経営層と社員、部門、職場の枠にとらわれないコミュニケーションができる風土をつくり、全員経営の礎としてまいります。今後ともアンリツグループの企業活動にご支援とご協力をお願い申し上げます。

2010年7月

アンリツ株式会社  
代表取締役社長

橋本 裕一

## 国連グローバル・コンパクト (United Nations Global Compact)



アンリツは、国連グローバル・コンパクトの活動に賛同し、2006年3月に参加を表明しました。  
※国連グローバル・コンパクト: 人権、労働基準、環境および腐敗防止に関する10原則を支持する団体の集まりです。1999年1月に開かれた世界経済フォーラムにおいて、コフィー・アナン前国連事務総長が提唱し、2000年7月ニューヨークの国連本部で正式に発足しました。

2010年6月24日・25日、ニューヨーク(アメリカ)で開催された「国連グローバル・コンパクト・リーダーズ・サミット」の中で発表された調査報告書「国連グローバル・コンパクト・アクセシビリティ **CEO Study 2010**」に、当社社長橋本裕一のメッセージが掲載されました。

[▲ページ先頭へ戻る](#)

## CSRマネジメント

- CSRホーム
- CSR報告2010
- トップコミットメント
- CSRマネジメント
- CSRの考え方
- アンリツのCSR達成像
- 達成像1  
安全・安心で快適な社会構築への貢献
- 達成像2  
グローバル経済社会との調和
- 達成像3  
地球環境保護の推進
- 達成像4  
コミュニケーションの推進
- 2009年度の実績、  
2010年度の目標
- 事業概要
- 第三者意見  
第三者意見を受けて
- 編集方針

### 事業活動によるCSR

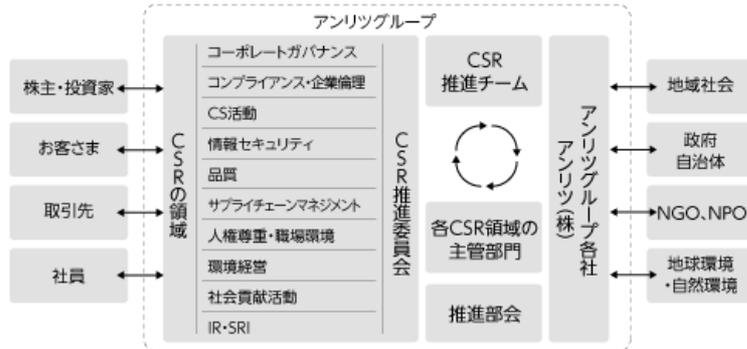
アンリツグループは、『誠と和と意欲』を掲げた経営理念のもと、法令・倫理・社会規範の遵守をベースに、事業活動によるCSRを通して経済・社会・環境面の企業責任を果たします。また、コミュニケーションによってステークホルダーの皆さまとのより良い関係を構築し、企業価値およびブランド価値の向上を目指します。



### CSRの推進体制

2004年11月に発足したCSR推進委員会では、社長が委員長を務め、経営トップ自らがCSR推進を牽引しています。また、多岐にわたる部門の活動を統一的に推進するために、専従部門としてCSR推進室を組織しました。現在はコーポレートコミュニケーション部CSR推進チームとなり、CSR推進委員会の事務局を務めCSR推進委員会の方針のもとアンリツのCSR活動を推進しています。CSRは一部門、一組織だけで実現できるものではなく、アンリツ全部門、グループ会社の協力なくして成功はありません。そこで、実効ある活動を進めるために、CS・品質、人権、社会貢献など、CSRの各領域を主管するアンリツ(株)の担当部門を中心に、グループ会社と横断的な連携をとり、CSR推進チームが事務局となって活動を推進しています。各領域についてCSRの視点で現状を把握・分析し、今後アンリツとして充実すべき課題の解決に取り組んでいます。

#### CSR推進体制



▲ページ先頭へ戻る

## CSRの考え方

▶ 経営理念・経営ビジョン・経営方針 | ▶ アンリツグループ企業行動憲章 | ▶ アンリツグループ行動規範

- CSRホーム
- CSR報告2010
- トップコミットメント
- CSRマネジメント
- CSRの考え方
- アンリツのCSR達成像
- 達成像1  
安全・安心で快適な社会構築への貢献
- 達成像2  
グローバル経済社会との調和
- 達成像3  
地球環境保護の推進
- 達成像4  
コミュニケーションの推進
- 2009年度の実績、  
2010年度の目標
- 事業概要
- 第三者意見  
第三者意見を受けて
- 編集方針

### 「達成像」実現に向けた 12の重要課題

アンリツは、経営理念・経営ビジョン・経営方針が掲げる基本原則を実践するとともに、グローバル企業として行動すべき原則を示すグローバル・コンパクト、および具体的な価値観・行動指針を示すアンリツグループ企業行動憲章を守ることを通して、CSR活動を推進しています。

アンリツは、CSR活動の方向性をより明確化・具体化するための中長期的な計画「CSR達成像」を定めて活動しています。2008年度に「達成像」実現に向けて、CSR活動を事業活動と一体のものとして推進し、中長期的な企業価値向上につなげるため、CSR課題の重要性を測定しました。下図のような手順に従って、「12の重要課題」を把握しました。2009年度に、中でも注力すべき課題を絞り込みました。

#### ◆ 経営理念

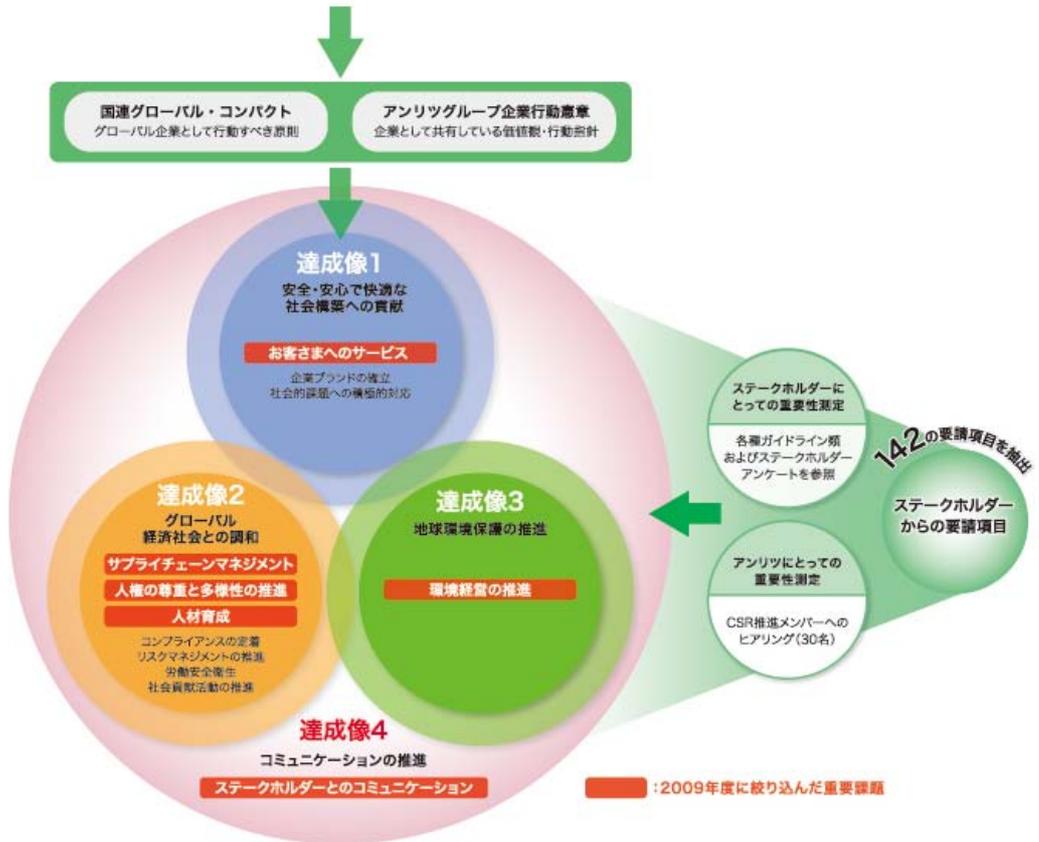
誠と和と意欲をもって、「オリジナル&ハイレベル」な商品とサービスを提供し、安全・安心で豊かなグローバル社会の発展に貢献する

#### ◆ 経営ビジョン

衆知を集めたイノベーションで“利益ある持続的成長”を実現する  
マーケット・ドリブンとカスタマー・フォーカスによるイノベーション活動で、グローバルなマーケットリーダーになる。

#### ◆ 経営方針

1. 衆知を集めた全員経営でハツラツとした組織へ
2. イノベーションで成長ドライバーの獲得
3. グローバル市場でマーケットリーダーになる
4. 良き企業市民として人と地球にやさしい社会づくりに貢献



### 重要性測定の手法と結果

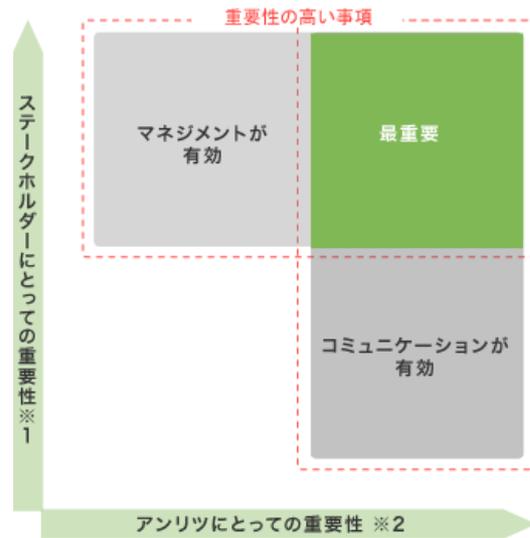
#### 測定のプロセス

客観性と網羅性に配慮するため、まず、社会からの要請項目として想定される142項目を抽出。各項目の測定結果を、「ステークホルダーにとっての重要性(=社会の影響・関心度合い)」(Y軸)、および「アンリツにとっての重要性(=企業価値への影響度合い)」(X軸)の2軸でプロットしました。アンリツにとっての重要性について30名の社員にヒアリングしたことは、事業活動の実態に則した課題意識を把握するだけでなく、重要性に対する主体的な気付きを醸成し、認識の共有化にもつながりました。

#### 抽出された12の重要課題

測定の結果、142項目のうちでとくに重要性が高い領域(下図の赤枠部分)にプロットされた12項目を、アンリツにとっての重要課題とらえました。さらに、この領域を「最重要」「マネジメントが有効」「コミュニケーションが有効」の3つの領域に分類することで、具体的対策への手掛かりを得ることがで

きました。



※1 各種ガイドラインや調査・格付機関の調査項目、および社内外のステークホルダーへのアンケート結果の中で要請されている内容と頻度をもとに、10段階で測定。

※2 各CSR領域の責任者・担当者であるCSR推進部会およびCSR推進メンバー30名へのヒアリングを通して、中長期的な企業価値へおよび影響度を重要度 5段階で測定。

注) 経済人コー円卓会議日本委員会様の手法を採用しました。

## 最重要

ステークホルダーにとってもAnritsuにとっても重要性が高く、優先的に対応する必要がある。

- お客さまへのサービス
- 企業ブランドの確立
- コンプライアンスの定着
- リスクマネジメントの推進
- 人権の尊重と多様性の推進
- 環境経営の推進
- ステークホルダーとのコミュニケーション

## マネジメントが有効

ステークホルダーにとって重要性が高く、リスク低減の観点から、ステークホルダーの期待レベルに対応した取り組みがより一層求められる。

- 社会的課題への積極的対応
- 人材育成
- 労働安全衛生

## コミュニケーションが有効

自社にとって重要性が高く、社会的な認知を高めることにより機会の獲得(強み)になり得る。

- 社会貢献活動の推進
- サプライチェーンマネジメント

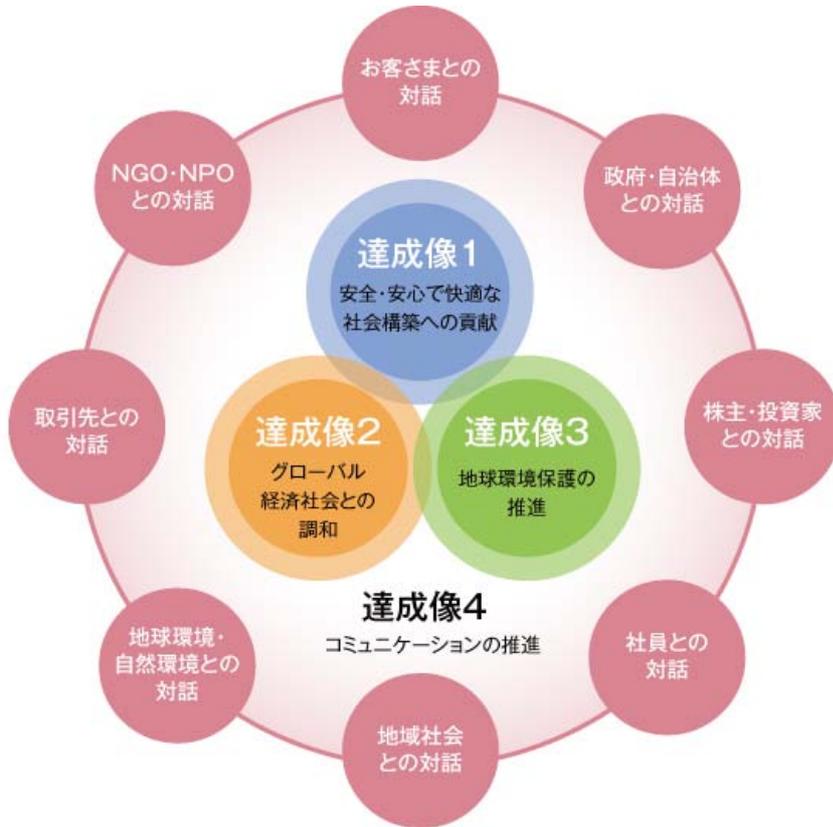
[▲ページ先頭へ戻る](#)

## アンリツのCSR達成像

- CSRホーム
- CSR報告2010
- トップコミットメント
- CSRマネジメント
- CSRの考え方
- アンリツのCSR達成像
- 達成像1  
安全・安心で快適な社会構築への貢献
- 達成像2  
グローバル経済社会との調和
- 達成像3  
地球環境保護の推進
- 達成像4  
コミュニケーションの推進
- 2009年度の実績、  
2010年度の目標
- 事業概要
- 第三者意見  
第三者意見を受けて
- 編集方針

### アンリツのCSR 達成像

このたびアンリツは、2006年に策定した「達成像」を見直しました。今後もその実現に向け、マネジメントの推進およびステークホルダーとのコミュニケーション促進の両面から、重要課題の取り組みを展開していきます。



#### 達成像1 安全・安心で快適な社会構築への貢献

**アンリツの姿**  
アンリツは、オリジナル&ハイレベルな技術によって、皆さまの安全と安心を守るために貢献している。

**社員の姿**  
社員一人ひとりが、お客さまの声を聞き、市場の期待を上回る品質の商品・サービスと迅速なサポートを提供している。

**社会からの評価**  
そして、アンリツの技術に対する一定の評価をいただきつづけ、アンリツブランドの信頼を築いている。

- <重要課題>
- お客さまへのサービス
  - 企業ブランドの確立
  - 社会的課題への積極的対応

#### 達成像3 地球環境保護の推進

**アンリツの姿**  
アンリツは、環境理念のもと、製品ライフサイクル全体を通じて、地球温暖化防止、循環型社会の形成、地球のクリーン化に取り組む環境経営が定着している。

**社員の姿**  
社員一人ひとりが、エコマインドを高め、自身の業務に密着した環境活動を自立して実践している。

#### 達成像2 グローバル経済社会との調和

**アンリツの姿**  
アンリツは、グローバル展開において、各地域の文化や特性と調和した事業活動を行い、サプライチェーン全体で社会的責任を果たしている。

**社員の姿**  
社員一人ひとりが、コンプライアンスを意識し人権を尊重し、多様な属性・文化・価値観のもとで活き活きと働き、成長している。

**社会からの評価**  
そして、地域に密着した社会貢献活動により、地域・社会との信頼関係を構築している。

- <重要課題>
- コンプライアンスの定着
  - 人材育成
  - リスクマネジメントの推進
  - 労働安全衛生
  - サプライチェーンマネジメント
  - 社会貢献活動の推進
  - 人権の尊重と多様性の推進

#### 達成像4 コミュニケーションの推進

**アンリツの姿**  
アンリツは、事業活動全体を通して、ステークホルダーへの積極的な情報開示と対話を行い、パートナーシップを構築している。

**社員の姿**  
社員一人ひとりが、ステークホルダーからの期待に耳を傾け、積極的なコミュニケーションを行い、相互理解を醸成している。

**社会からの評価**

社会からの評価  
そして、グローバル環境経営を推進し、地球環境保護に積極的に  
貢献する企業として社会から認知されている。

<重要課題>  
■環境経営の推進

そして、ステークホルダーに対してアンリツの姿を正しく伝え、アンリツに  
対する評価と信頼を築いている。

<重要課題>  
■ステークホルダーとのコミュニケーション

[▲ページ先頭へ戻る](#)

## 達成像1 安全・安心で快適な社会構築への貢献

- CSRホーム
- CSR報告2010
- トップコミットメント
- CSRマネジメント
- CSRの考え方
- アンリツのCSR達成像
- 達成像1  
安全・安心で快適な社会構築への貢献**
- 達成像2  
グローバル経済社会との調和
- 達成像3  
地球環境保護の推進
- 達成像4  
コミュニケーションの推進
- 2009年度の実績、  
2010年度の目標
- 事業概要
- 第三者意見  
第三者意見を受けて
- 編集方針

### 達成像1 安全・安心で快適な 社会構築への貢献



アンリツは、“オリジナル&ハイレベル”な商品とサービスによって皆さまの安全と安心を守り、事業活動を通じて社会的な課題へ積極的に対応します。

▶ お客さまへのサービス

▶ 企業ブランドの確立

▶ 社会的課題への積極的対応

[▲ページ先頭へ戻る](#)

## お客さまへのサービス

- CSRホーム
- CSR報告2010
- トップコミットメント
- CSRマネジメント
- CSRの考え方
- アンリツのCSR達成像

達成像1  
安全・安心で快適な社会構築への貢献

達成像2  
グローバル経済社会との調和

達成像3  
地球環境保護の推進

達成像4  
コミュニケーションの推進

2009年度の実績、  
2010年度の目標

事業概要

第三者意見  
第三者意見を受けて

編集方針

▶ お客さまへのサービス

▶ 企業ブランドの確立

▶ 社会的課題への積極的対応

アンリツは、お客さまに対するテクニカルサポートやクレームなどへの迅速な対応を重視しています。お客さまに安全と安心を提供できるよう、将来を見据えたサポート体制およびグローバルな情報共有体制の構築を推進しています。

### 基本的な考え方

アンリツは、「お客さまから厚く信頼される企業になろう」という行動指針のもと、社員一人ひとりが「お客さまは何を求め、何に困っているか」をいつも念頭に置いて、誠心誠意お客さまに尽くし、お客さまとのコミュニケーションを密にし、お客さまのご要望にお応えしていくことが重要だと考えております。

### グローバルCS推進体制の構築

日本では、1997年度にアンリツグループ各社代表で構成したCS\*推進部会が発足し、以降アンケート調査による改善活動やCS Awardの導入など積極的にCS推進活動に取り組んできました。2009年度は、市場環境の急激な変化などにより、CS推進活動も新たな局面を迎え、従来からの課題を整理し、新たに日本国内のアンリツグループを中心とした、CS推進体制を構築しました。「お客さまに明確なコンセプトを発信し、お客さまが抱いた期待に応える。さらに、お客さまの期待を超える、商品やサービスを提供する。」ことを目標に活動を推進しています。

\*CS (Customer Satisfaction): 顧客満足

### グローバルWebの構築

2009年度、日本、韓国、台湾のウェブサイトが、他の地域にさきがけて新しく生まれ変わりました。お客さまからの声に応えるべく、製品情報やサポート・サービス情報が検索しやすく、入手しやすい構成を目指しました。

また、お客さまが必要なときに必要な情報を入手できることを目指し、ソフトウェアや資料のダウンロード機能に加え、オンライン見積り請求等の機能を充実させました。世界のお客さまに同一のサービス・サポートを提供できるよう、デザインや操作性を統一し、多言語に対応したインターネットウェブサイトの改善を進めています。

2010年度は、欧米、中国等への展開を予定しています。世界のお客さまに同一のサービス・サポートや情報共有に加え、各国に応じた情報提供やサービス・サポートの充実を図り、今後もグローバルなお客さまのご要望にお応えしていきます。

アンリツはお客さまに満足していただくよう、より迅速な情報発信やサービス向上に努め、十分なコミュニケーションを通じて、「お客さまから厚く信頼される企業」を目指します。



### グローバルサービス

2006年度に発足したアンリツ計測器グループの「グローバル・カスタマーサービス委員会」では、グローバルに均一かつ高品質で、付加価値の高いカスタマーサービスを運営、提供することを目的に活動を続けています。

2009年度は、EMEA地域において、多くのお客さまと直接コンタクトを取ること、お話しすること、訪問することなど、今まで以上に密接にお客さまとコミュニケーション取ることによる良好な関係を築き、顧客満足度を大幅に改善しました。

ウェブサイトでは、2009年度のリニューアルに合わせて、修理・校正サービスのメニュー拡充や分かりやすさの改善を行いました。保証期間の確認や各地域の顧客要求に応じた独自サービスメニューの追加など、お客さまのご要望を取り入れグローバルにサービス向上を図っていきます。

EMEA (Europe, Middle East and Africa): 欧州、中近東、アフリカ

### 包装改善

アンリツでは、お客さまからご要望の多い、包装の簡素化や包装資材削減に積極的に取り組んでいます。

例えば計測器を納入する際、従来は製品を厳重な緩衝材で包みダンボール箱で納品していましたが、繰り返し使用できる通い箱と緩衝材を用い、製品のみをお渡りする運用を実施しています。これにより、お客さま先での包装資材の廃棄量を大幅に削減しています。以前から日本の一部地域で運用していましたが、2009年度より日本の全地域を対象を拡大しました。



商品の搬入



商品の取り出し



商品の納品

### 国際物流の円滑化と国際安全保障の実現を両立

2008年12月、アンリツは日本で157番目の「特定輸出者」として横浜税関さまから認定されました。特定輸出者制度は、膨大な国際物流において

円滑な運営と国際安全保障の実現を両立させることを目的とする制度です。認定企業は、輸出製品の納期の短縮や輸出コスト削減という便益を享受する一方、従前まして、自らの責任で輸出業務を遂行することになります。

この特定輸出者認定制度は日本独自のものではなく、WCO(World Customs Organization)のガイドラインに基づき、AEO(Authorized Economic Operator)と総称される同様の制度が世界各国で導入されています。2010年6月はAEOの国際連携が大きく進展し、日本-欧州間、日本-カナダ間で相互承認が締結されました。アンリツは、日本と欧州との相互承認締結に向けた動きの中で、欧州税関調査団の視察先として選定され、2009年5月に視察が行われました。調査団からはアンリツの輸出管理体制が高く評価され、税関当局からも協力を感謝されました。

今後もコンプライアンス・プログラム、リスクマネジメントの継続的な改善・強化を図り、安全・安心で豊かなグローバル社会の発展に貢献します。

[▲ページ先頭へ戻る](#)

## 企業ブランドの確立

## CSRホーム

## CSR報告2010

## トップコミットメント

## CSRマネジメント

## CSRの考え方

## アンリツのCSR達成像

## 達成像1

安全・安心で快適な社会構築への貢献

## 達成像2

グローバル経済社会との調和

## 達成像3

地球環境保護の推進

## 達成像4

コミュニケーションの推進

## 2009年度の実績、

## 2010年度の目標

## 事業概要

## 第三者意見

## 第三者意見を受けて

## 編集方針

▶ お客さまへのサービス

▶ 企業ブランドの確立

▶ 社会的課題への積極的対応

アンリツは、オリジナル&ハイレベルな商品とサービスによって皆さまの安全と安心を守り、事業活動を通じて社会的な課題へ積極的に対応します。

## デジタル・デバイド解消を支えるハンドヘルド計測器



「詳細はWebへ」。テレビCMや新聞・雑誌の広告、PR記事などで馴染みの表現です。

しかし、インターネットに接続する手段がなかったら。現実には、ITU(国際電気通信連合)の2008年版各国別インターネット普及率から全世界の平均値を推定すると約23%(ITU調査による)にとどまっています。情報通信ネットワークの利便性が高まれば高まるほど、「デジタル・デバイド」※1が社会的な課題となってきます。こうしたなか、世界各国では、無線通信ネットワークの構築が活発に行われています。ここで使用されているのが、アンリツの小型計測器です。この計測器は、山間部やビル内、地下街などへ簡単に持ち運べるハンドヘルドサイズでありながら、大型の計測器と遜色のない機能・性能を保持しています。無線基地局用のハンドヘルド計測器のきっかけになったのは、オープンレンジほどの大きさの計測器を担いで山頂の基地局を目指す保守作業者の写真でした。「小さくできれば、きっと助かるに違いない」。そう考えた一人のエンジニアがある日の昼食中、ひらめいた回路図をテーブルナプキンに書きとめた瞬間からハンドヘルド計測器の歴史が始まったのです。そして数年間の開発期間を経た1995年。無線基地局用としては世界初となるハンドヘルド計測器が誕生しました。

以来、通信技術の進化に足並みを揃え、アンリツのハンドヘルド計測器は、携帯電話やWiMAX※2などさまざまな無線通信基地局のアンテナやケーブルの障害検証から空中を飛び交う電波の品質測定まで対応。無線基地局の建設・保守用計測器として幅広く利用されています。

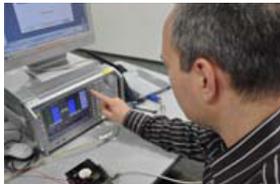
\*1 デジタルデバイド

情報通信技術(特にインターネット)の恩恵に浴することのできる人とできない人の間に生じる格差のこと。

\*2 WiMAX

高速無線通信システムの一つ(Worldwide Interoperability for Microwave Access)

## デジタル社会の安全と安心に貢献



情報通信技術はアナログからデジタルへ進化し、自動車、電化製品、公共・業務用無線などでも活用が進んでいます。こうしたデジタル無線通信はわたしたちの暮らしを快適で豊かなものにしてくれる、いわば重要な社会インフラ。でも、その反面、あるリスクが顕在化しています。それが、妨害波です。さまざまな通信システムが混在している今日、ある電波が他の通信システムでやりとりされる電波に干渉し、システムの正常な動作を妨げることがあるのです。

そこで、情報通信関連企業では、デジタル無線機器から放射される電波を妨害波にしないことが至上命題の一つとなっています。アンリツは、妨害波測定、解析、シミュレーションなどを可能とする計測器、屋外での電波調査に最適な小型・軽量のハンドヘルド計測器を提供。デジタル社会の安全と安心に貢献しています。

## 国際標準の試験規格づくりで、LTEの実用化に貢献



通信事業者や端末メーカーを問わずつながる携帯電話。この利便性こそ、情報通信技術の価値となっています。ではなぜこうした通信が可能なのか。その答が「規格適合試験」です。次々と開発される携帯電話やスマートフォンといったネットワーク端末は、3GPP(第3世代携帯電話システムの国際標準化団体)が策定した国際標準の評価試験に合格することで、同一システム内での通信はもちろんのこと、異なるシステム間での相互接続が保証されています。

アンリツは、第3世代携帯電話システムの初期段階からこうした試験規格の策定に参加しています。この取り組みは、2010年末に日本やアメリカで商用サービスが開始される次世代高速無線通信システム

LTE\*(Long Term Evolution)でも継続。規格適合試験を策定しているワーキンググループの副議長を務めています。アンリツはこうした活動で蓄積してきた技術・ノウハウを活かし、LTE規格適合試験用ソリューションを供給しています。この試験システムによる試験で合格したLTE端末は3GPP規格を満たしていることが認定され、LTEサービスの実用化に貢献しています。

\*LTE

無線端末で光通信並みの高速・大容量通信を可能とする無線通信システム。世界各国の主要な通信事業者がLTEの導入を表明しており、無線通信システムの世界標準となることが見込まれている。

## トピック 日本ITU協会から「功績賞」受賞



アンリツは、ITU(国際電気通信連合)が推進している無線通信・電気通信技術の国際標準規格づくりにも参画しています。この活動を主導してきた石部 和彦が、日本ITU協会から「功績賞」を受賞しました。石部は1998年から、ITUの標準化活動に参加。2006年からは、測定器標準化グループの議長(ラポータ)を務め、ジッタ\*測定技術の国際標準規格策定に尽力しています。こうした取り組みが評価され、日本ITU協会から「功績賞」を受賞しました。日本ITU協会ではITUの諸活動に貢献した個人を表彰していますが、功績賞はその最高位に位置づけられています。また、この賞は、ITU関連企業144社が加盟する業界団体の推薦によるものであり、電気通信業界全体への貢献が認められた証にもなっています。

\*ジッタ

電気信号を伝送する際に生じる信号の時間的なずれやゆらぎ。ジッタは、音声や映像の乱れの原因となる。

## 海を超えたブロードバンド通信を支える“Only One”計測器



いつの時代も国際間の通信網として利用されていた海底ケーブル。インターネットの急激な普及にともないブロードバンド化が進み、現在では国際間の通信ネットワークの90%超が光ファイバとなっています。しかし、映像や動画、音楽、ゲームなどいわゆるリッチコンテンツが急激に普及している今日、インターネット上を行き来する情報量は増大の一途をたどり、2013年には、現在の約5倍となる年間667エクサバイト(1エクサバイトは、世界中で発行されている印刷物の情報量に相当)に達すると予測されています。このため、各国の通信関連企業は光海底ケーブルの新規敷設や増強に取り組んでいます。ときに1万キロ超におよぶ光海底ケーブルは、海底地震や地形のおうとつ、漁具などさまざまな要因で破損することがあり、迅速なトラブル対応が極めて重要です。その出発点となるのが障害箇所の探索ですが、これを可能とする計測器を提供しているのは世界でただ1社。アンリツだけです。アンリツは、長さ12,000kmの光海底ケーブルの障害箇所を10m間隔で特定できる計測器を提供。陸上での障害点探査、補修後の品質確認などさまざまな場面で使用され、海底に張り巡らされた情報の道を支えています。

## 深海とのコミュニケーションを支える「はかる」技術

深海に眠るオイルや天然ガス。貴重なエネルギー資源として注目され、世界各国の海底で掘削施設が建設されていますが、万が一、事故が起こると環境への影響も懸念されます。これら施設の建設や保守には、遠隔操作ロボットが用いられています。深海で作業するロボットから高品質な現場映像や各種データを送る。海上の船からロボットへ正確な指令を送る。この情報経路となっているのが両者をつなぐ光ファイバです。光ファイバは折れたり、曲がったりすることで、信号品質が劣化しますが、被覆された光ファイバの障害点を見つけ出すのは、人間の目では不可能です。そこで、アンリツは簡単な操作で光ファイバの障害点を特定でき、持ち運びに便利な小型計測器を提供。深海と海上とをつなぐコミュニケーションの道づくりを通して、オイルやガス施設の安全で安心な運用に貢献しています。

## 食品・医薬品の安全と廃棄ロス低減に貢献



食品、医薬品にあってはならない品質不良。直接口にするものへの安全と安心は社会的な要請です。アンリツ産機システム(株)では、加工、包装、最終検査までの一連の工程で必要とされる検査機器を提供。原材料、内容量の正確な計量から加工時、包装時、出荷検査時における異物検出まで対応した製品が、国内外の食品メーカーのオートメーションラインに組み込まれています。

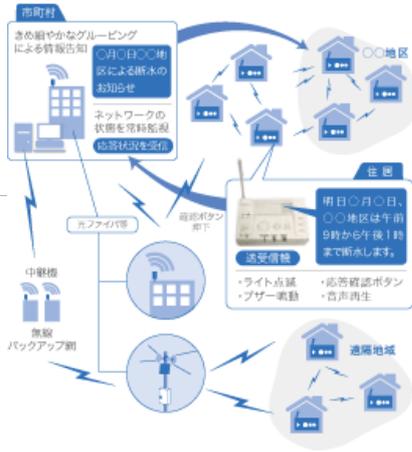
また、材料資源の無駄排除の観点から、サステナブル社会を志向した取り組みも推進しています。その代表例がX線異物検出機。X線異物検出機は、直径0.2mmの金属片に加え、骨や石、プラスチックなどの異物も検出できることから最終検査での利用が主流となっています。しかし、この段階で異物混入が発見された場合、加工、包装後の製品を廃棄することになり、食材や包装資材のロスにつながります。そこで、アンリツ産機システム(株)では、X線異物検出機のラインアップ拡充を進め、大袋に入った原材料の異物検査を可能とする大型製品対応モデルも提供。加工前の段階で品質検査が行え、材料資源の廃棄ロス低減に貢献しています。

## サンプルテストサービス/技術セミナーの実施



アンリツ産機システム(株)では、各種検査機器をお客さまに納得した上で購入してもらいたいと考えています。その一環として実施しているのがサンプルテストです。サンプルテストでは、お客さまの商品サンプルを用いて検査します。これにより、想定される検査感度や最適な検査条件を事前に確認でき、安心してご購入いただけます。また、検査機器をベストな状態で使用していただくためには、お客さまの使用条件に合わせて機器の設定を調節し、日々のメンテナンスを欠かさないことが重要です。そこで、各種の技術セミナーを開催し、製品の動作原理や使用方法から、品質管理に関する最新の技術動向までさまざまな情報を提供。お客さまの品質管理活動を総合的、多面的に支援しています。

## 防災/減災・防犯ネットワークの高度利用に向けて



日本各地で刻々になると聞こえてくる「赤とんぼ」や「夕焼け小焼け」のメロディ。実はこのメロディは、市町村防災行政無線が故障していないことを確認するための試験としても流されています。市町村防災行政無線では、地震や台風など大規模災害発生時の避難勧告や退避命令、行方不明者の捜索協力依頼などが放送されますが、情報が一方通行であり、また地域によっては明瞭に聴き取れないといった難点があります。そこでアンリツネットワークス(株)は、株式会社NTTデータさまとの協業により、「減災コミュニケーションシステム」を開発しています。このシステムは、双方向通信を最大の特徴としており、災害発生時に緊急情報を地域住民の皆さまに伝達するとともに、被災者の安否も確認できます。また平常時には、休日当番医、断水のお知らせなどにも利用でき、より地域住民の皆さまに役立つ行政サービスの実現に貢献します。

## 金融機関の通信品質向上に向けて

金融機関の行内ネットワークは、振り込みや入金、引き落としなどで利用される勘定系、顧客情報を管理するデータ系などから構成されています。ここで必須となるのは、万全なセキュリティであることは言うまでもありません。このため、金融機関では、各々のネットワークで専用線(通信事業者が提供する特定顧客向けの専用回線)を用いていますが、ネットワークの高効率利用、管理・運用コスト削減の観点から、広域イーサネット回線網への統合が進展してきています。ここでアンリツネットワークス(株)が提供しているのが帯域制御装置です。この製品はネットワーク内において、各種オンラインデータ通信を帯域制御することで安定した通信品質の向上が図れます。専用線並みの品質を維持しつつ、統合ネットワークを管理・運用できることから、数多くの金融機関で採用されています。

## 地上デジタル放送の視聴エリア拡大に貢献



2011年7月24日、日本のテレビ放送は新たな時代に入り、アナログからデジタルへ完全に切り替えることが予定されています。現在、放送事業者は、地上デジタル放送網の整備・拡充を急ピッチで進めています。通信事業者、衛星放送事業者、CATV事業者なども光ファイバを用いて地上デジタル放送サービスを提供しており、視聴エリア拡大の一助となっています。このサービスを支えているのが、アンリツデバイス(株)です。光ファイバによる放送配信システムでは、光増幅器を用いて映像信号を増幅し分配・伝送しています。アンリツデバイス(株)は、この光増幅器の光源となるポンプレーザを開発。長年にわたり計測器の心臓部を担ってきたデバイス技術でお客さまから要求される高い信頼性に応え、地上デジタル放送の視聴エリア拡大、離島や山間部などの難視聴エリア解消に貢献しています。

## ネットワーク接続機能を支えるソフトウェアソリューション



外出先から無線端末を利用してビデオの録画予約をする、セキュリティ機器からの映像を確認する。エレクトロニクス業界では、こうした便利で快適な社会づくりに向け、ネットワーク機能を搭載した家電や本格的なインターネット接続機能を有する無線端末の開発が進展しています。これらデジタル機器のネットワーク接続機能の評価を可能とする専用ツールが、アンリツエンジニアリング(株)の「ネットワークエミュレータ」です。通常ネットワーク接続機能は、ホストコンピュータや各種サーバなど、複数のコンピュータを実際に用意して評価されていますが、ネットワークエミュレータを利用することにより、1台のPCだけで試験が行えます。これにより、機材調達コストの削減はもちろんのこと、試験時の消費電力の大幅な削減に貢献いたします。たとえば、32台のノートPCを試験用機材として用いて1ヶ月間試験を行った場合、約2000kWhの電力が必要となりますが、CX750Aでは約70kWhの電力で試験が可能。お客さまの地球環境負荷低減にも貢献しています。

## デジタル機器の小型化・高機能化を支える精密計測技術

手のひらサイズのボディにさまざまな機能を搭載した携帯電話。多機能化するデジタルカメラやデジタルTV、自動車の安全性やエネルギー効率向上を支える車載用基板。こうしたエレクトロニクス技術の進化は、わたしたちの生活に新たな価値をもたらしています。その一方、これらエレクトロニクス機器の心臓部となるプリント基板には電子部品が多数搭載され、微細な実装不良が製品品質に影響します。こうした高密度プリント基板の製造を支えているのが、アンリツプレジジョン(株)の精密計測技術です。アンリツプレジジョンは、高密度プリント基板に印刷されたクリームはんだの状態の良否を3次元で検査できる印刷はんだ検査機や電子部品の高さ、段差、幅、厚みなどの寸法やそり、うねり等の形状を高精度に測定できる光マイクロ、白色干渉計を提供。通信端末や液晶ディスプレイ、カーエレクトロニクスなど広範な分野で技術革新を支えています。



[▲ページ先頭へ戻る](#)

## 社会的課題への積極的対応

- CSRホーム
- CSR報告2010
- トップコミットメント
- CSRマネジメント
- CSRの考え方
- アンリツのCSR達成像

達成像1  
安全・安心で快適な社会構築への貢献

達成像2  
グローバル経済社会との調和

達成像3  
地球環境保護の推進

達成像4  
コミュニケーションの推進

2009年度の実績、  
2010年度の目標

事業概要  
第三者意見  
第三者意見を受けて  
編集方針

▶ お客さまへのサービス

▶ 企業ブランドの確立

▶ 社会的課題への積極的対応

アンリツはグローバルな社会の要請に対して、事業を通じて積極的に対応していくことを重視しています。

### 国連グローバル・コンパクトへの賛同

2006年3月、アンリツはグループ全体のCSR活動をさらに定着させ、発展させるため、国連が提唱する「グローバル・コンパクト」に賛同しました。

#### ■グローバル・コンパクト(GC)の原則と関連記事の対照表

アンリツが、2009年度に実施したCSR活動を国連グローバル・コンパクトが掲げる10原則に照らして整理すると、以下のようになります。なお、2007年に行ったアンリツのGCへの報告は、「Notable COP(特筆すべき活動報告)」に選定されました。



※グローバル・コンパクト(Global Compact): 人権、労働基準、環境および腐敗防止に関する10原則を支持する団体の集まりです。1999年1月に開かれた世界経済フォーラムにおいて、コフィー・アナン前国連事務総長が提唱し、2000年7月にニューヨークの国連本部で正式に発足しました。

グローバル・コンパクト10原則			2009年度の主な取り組み	該当ページ
共通		グローバル・コンパクト10原則全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度に引き続き財務報告にかかわる内部統制システムの有効性を確認しました。</li> <li>・コンプライアンス推進施策として、[1]アンリツ行動規範の周知徹底、[2]階層別教育をはじめとする社内教育・啓発、[3]倫理アンケートを通してさまざまなリスクの回避、[4]社内外のヘルプラインによる社内の倫理法令違反の防止とより働きやすい職場環境をめざしています。</li> </ul>	<a href="#">リスクマネジメントの推進</a>  <a href="#">コンプライアンスの定着</a>
人権	原則1	企業は、国際的に宣言されている人権の保護を支持、尊重し、	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職場における労働安全衛生を確保する活動を実施しました。</li> <li>・取引先に対して人権保護の法令遵守を依頼しました。</li> </ul>	<a href="#">労働安全衛生</a>  <a href="#">サプライチェーンマネジメント</a>
	原則2	自らが人権侵害に加担しないよう確保すべきである。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社員に対し倫理アンケートを通してハラスメントの実態を調査しました。</li> <li>・取引先に対して人権侵害に加担しないように依頼しました。</li> </ul>	<a href="#">コンプライアンスの定着</a>  <a href="#">サプライチェーンマネジメント</a>
労働基準	原則3	企業は、組合結成の自由と団体交渉の権利の実効的な承認を支持し、	・ワークライフバランスを図るため、社員の要請に基づき労働環境の整備に努めています。	<a href="#">人権の尊重と多様性の推進</a>
	原則4	あらゆる形態の強制労働の撤廃を支持し、	・取引先に対して強制労働への加担禁止を依頼しました。	<a href="#">サプライチェーンマネジメント</a>
	原則5	児童労働の実効的な廃止を支持し、	・取引先に対して児童労働への加担禁止を依頼しました。	<a href="#">サプライチェーンマネジメント</a>
	原則6	雇用と職業における差別の撤廃を支持すべきである。	・採用のボーダレス化を進めました。	<a href="#">人権の尊重と多様性の推進</a>
環境	原則7	企業は、環境上の課題に対する予防原則的アプローチを支持し、	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エコファクトリーおよびエコオフィスの活動を推進しました。</li> <li>・環境会計を継続的に実施しました。</li> </ul>	<a href="#">エコオフィス、エコファクトリー</a>  <a href="#">環境会計(2009年度)</a>

	原則8	環境に関するより大きな責任を率先して引き受け、	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境経営についてコミットしました。</li> <li>・エコマインドの活動を推進しました。</li> <li>・地球温暖化防止の取り組みを推進しました。</li> </ul>	<p>エコマネジメント、エコマインド</p> <p>エコマネジメント、エコマインド</p> <p>エコオフィス、エコファクトリー</p>
	原則9	環境に優しい技術の開発と普及を奨励すべきである。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境配慮型製品の開発を促進しました。</li> </ul>	エコプロダクツ開発
腐敗防止	原則10	企業は、強要と贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗の防止に取り組むべきである。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ケーススタディシート発行により、社員を啓発しました。</li> <li>・取引先への「お願い事項」に“反社会勢力との取引の禁止”を明記し周知・徹底を図りました。</li> </ul>	<p>コンプライアンスの定着</p> <p>サプライチェーンマネジメント</p>

[▲ページ先頭へ戻る](#)

## 達成像2 グローバル経済社会との調和

- CSRホーム
- CSR報告2010
- トップコミットメント
- CSRマネジメント
- CSRの考え方
- アンリツのCSR達成像
- 達成像1  
安全・安心で快適な社会構築への貢献
- 達成像2  
グローバル経済社会との調和**
- 達成像3  
地球環境保護の推進
- 達成像4  
コミュニケーションの推進
- 2009年度の実績、  
2010年度の目標
- 事業概要
- 第三者意見  
第三者意見を受けて
- 編集方針



### 達成像2 グローバル経済社会との調和

アンリツは、誠実な企業であるための基盤を強化し、社員の人権の尊重と多様性に配慮した働きやすい職場を整備するとともに、サプライチェーンや地域・社会との信頼関係を構築します。

- ▶ コンプライアンスの定着
- ▶ リスクマネジメントの推進
- ▶ サプライチェーンマネジメント
- ▶ 人権の尊重と多様性の推進
- ▶ 人材育成
- ▶ 労働安全衛生
- ▶ 社会貢献活動の推進

[▲ページ先頭へ戻る](#)

## コンプライアンスの定着

- CSRホーム
- CSR報告2010
- トップコミットメント
- CSRマネジメント
- CSRの考え方
- アンリツのCSR達成像
- 達成像1  
安全・安心で快適な社会構築への貢献
- 達成像2  
グローバル経済社会との調和
- 達成像3  
地球環境保護の推進
- 達成像4  
コミュニケーションの推進
- 2009年度の実績、2010年度の目標
- 事業概要
- 第三者意見  
第三者意見を受けて
- 編集方針

▶ コンプライアンスの定着	▶ リスクマネジメントの推進	▶ サプライチェーンマネジメント	▶ 人権の尊重と多様性の推進
▶ 人材育成	▶ 労働安全衛生	▶ 社会貢献活動の推進	

倫理・法令を遵守した健全な企業行動を推進するため、企業倫理・コンプライアンス推進体制を構築・整備し、倫理意識を向上させるためのさまざまな施策を継続的に実施しています。

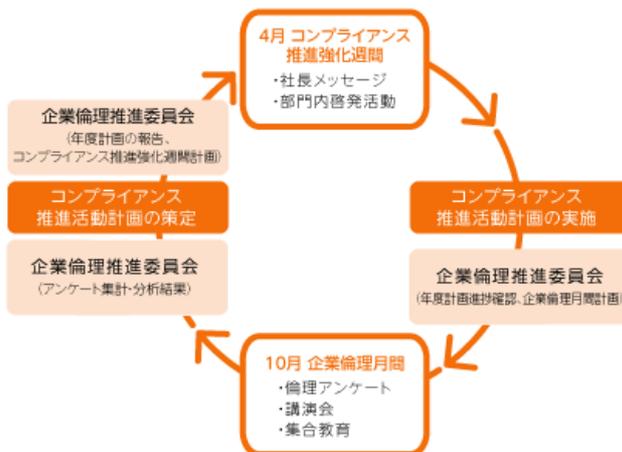
### 企業倫理・コンプライアンス

#### ■継続的な改善活動(年間活動)

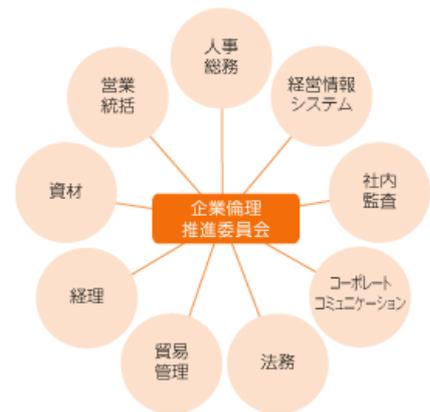
国内アンリツグループでは、コンプライアンス推進体制の一環として、各企業倫理関係部門の代表で構成される企業倫理推進委員会を設置し、国内アンリツグループのコンプライアンス推進活動を企画・支援・実施しています。

特に、10月の「企業倫理月間」に実施する企業倫理アンケート結果を分析・考察し、年間の活動計画を策定、計画の実施確認、アンケートによる効果の確認を1年周期で行い、コンプライアンス活動の継続的な改善を図っています。

#### コンプライアンス推進活動



#### 企業倫理推進委員会構成部門



#### ■二つのイベント

4月の1週間を「コンプライアンス推進強化週間」に設定、10月の1ヶ月間を「企業倫理月間」に設定し、外部講師による講演会、企業倫理推進委員会部門による研修や専門教育、国内アンリツグループの社員、派遣社員などを対象とした倫理アンケートなどを実施しています。

- ・ 階層別教育(新入社員・新任幹部職等)
- ・ 各委員会・部門による個別・専門教育
- ・ 外部講師による講演会(年1回)
- ・ ビデオ・DVDの貸出、上映
- ・ 企業倫理アンケート※

※:コンプライアンス推進活動の有効性の確認や各組織での課題を抽出し改善していくため、国内アンリツグループの社員、派遣社員、協力会社社員、サプライヤなど社内外を対象とした企業倫理アンケートを実施しています。アンケートから分析・考察・検討された結果を各組織の経営者へフィードバックし、今後のコンプライアンス推進活動計画の策定などに生かします。



講演会の写真  
経済人コー円卓会議日本委員会  
専務理事 事務局長  
関西学院大学大学院  
経営戦略研究科准教授  
石田 寛 様



集合教育風景の写真

#### ■アンリツグループ行動規範・ケーススタディシートの発行

- ・ アンリツグループ行動規範  
アンリツグループ企業行動憲章に則り、アンリツグループ社内で業務に従事するすべての人が日頃とるべき行動指針として策定しています。国内アンリツグループのみならず、海外アンリツグループ各社でも各国の法律や慣習に準拠した行動規範の策定をしています。特にイギリスにあるAnritsu EMEA Ltd.では、2008年度に完成した簡易版の行動規範 (Code of Conduct) を使用して、社員の教育を2009年度に実施しました。さらに、他の欧州の国々へ行動規範を展開するために、それぞれの国の言

語に置き換える準備を進めています。

2010年度には、会社を取り巻く社会環境変化への対応と、現行の各国の行動規範を網羅したグローバルに利用できる行動規範の策定を予定しています。

● ケーススタディシート(事例集)

日頃の生活や業務のなかで発生した、あるいは発生する可能性のある具体的事例を、毎月2テーマ選び、注意すべきポイントや解説を簡潔に記したケーススタディシート(事例集)を発行しています。イントラネットへの掲載と社内へのポスター掲示を行い、各組織の朝礼などで話し合いをするための教育啓発ツールとして活用しています。2010年3月現在で98例を発行済みです。



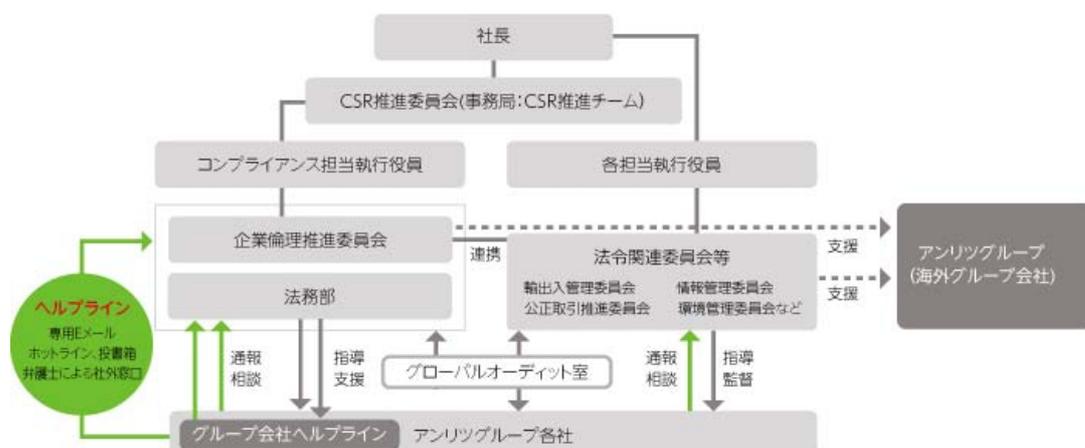
■ 独占禁止法等遵守内部監査

公正で自由な営業活動および取引が行われていることを確認するため、営業部門(地方拠点含む)を対象に営業活動状況・受注販売プロセスの内部監査(年1回)を実施しています。同時に、独占禁止法・下請法の教育も実施しています。

■ ヘルプライン

社内の倫理法令違反の未然防止、より働きやすい職場環境づくりを目指して、内部からの報告・通報・相談を受け付ける『ヘルプライン』と、社外窓口(弁護士・カウンセラー)を設けています。また、社内の問題だけでなく、生活全般の相談を受け付ける法律相談日(月2回)を設けています。

■ 企業倫理・コンプライアンス推進体制



[▲ページ先頭へ戻る](#)

## コンプライアンスの定着

- CSRホーム
- CSR報告2010
- トップコミットメント
- CSRマネジメント
- CSRの考え方
- アンリツのCSR達成像
- 達成像1  
安全・安心で快適な社会構築への貢献
- 達成像2  
グローバル経済社会との調和
- 達成像3  
地球環境保護の推進
- 達成像4  
コミュニケーションの推進
- 2009年度の実績、2010年度の目標
- 事業概要
- 第三者意見  
第三者意見を受けて
- 編集方針

▶ <b>コンプライアンスの定着</b>	▶ <b>リスクマネジメントの推進</b>	▶ <b>サプライチェーンマネジメント</b>	▶ <b>人権の尊重と多様性の推進</b>
▶ <b>人材育成</b>	▶ <b>労働安全衛生</b>	▶ <b>社会貢献活動の推進</b>	

倫理・法令を遵守した健全な企業行動を推進するため、企業倫理・コンプライアンス推進体制を構築・整備し、倫理意識を向上させるためのさまざまな施策を継続的に実施しています。

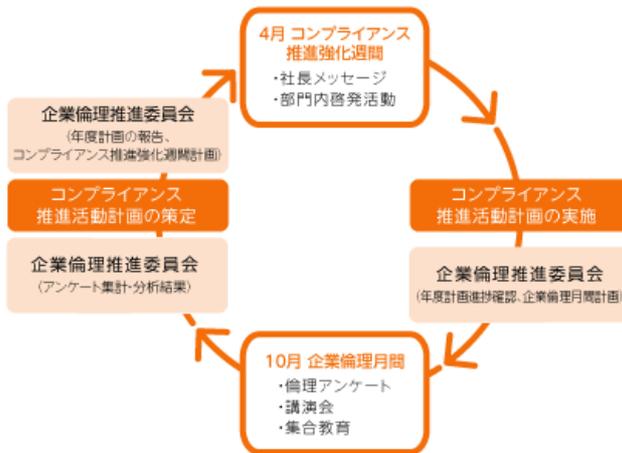
### 企業倫理・コンプライアンス

#### ■継続的な改善活動(年間活動)

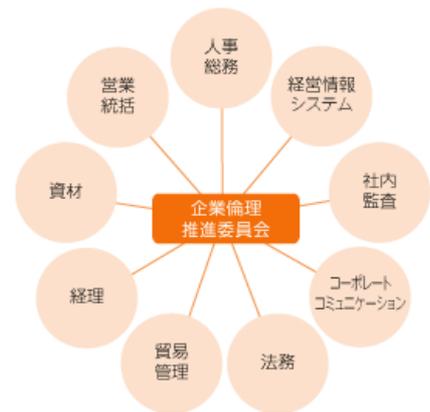
国内アンリツグループでは、コンプライアンス推進体制の一環として、各企業倫理関係部門の代表で構成される企業倫理推進委員会を設置し、国内アンリツグループのコンプライアンス推進活動を企画・支援・実施しています。

特に、10月の「企業倫理月間」に実施する企業倫理アンケート結果を分析・考察し、年間の活動計画を策定、計画の実施確認、アンケートによる効果の確認を1年周期で行い、コンプライアンス活動の継続的な改善を図っています。

#### コンプライアンス推進活動



#### 企業倫理推進委員会構成部門



#### ■二つのイベント

4月の1週間を「コンプライアンス推進強化週間」に設定、10月の1ヶ月間を「企業倫理月間」に設定し、外部講師による講演会、企業倫理推進委員会部門による研修や専門教育、国内アンリツグループの社員、派遣社員などを対象にした倫理アンケートなどを実施しています。

- ・ 階層別教育(新入社員・新任幹部職等)
- ・ 各委員会・部門による個別・専門教育
- ・ 外部講師による講演会(年1回)
- ・ ビデオ・DVDの貸出、上映
- ・ 企業倫理アンケート※

※:コンプライアンス推進活動の有効性の確認や各組織での課題を抽出し改善していくため、国内アンリツグループの社員、派遣社員、協力会社社員、サプライヤなど社内外を対象にした企業倫理アンケートを実施しています。アンケートから分析・考察・検討された結果を各組織の経営者へフィードバックし、今後のコンプライアンス推進活動計画の策定などに生かします。



講演会の写真  
経済人コー円卓会議日本委員会  
専務理事 事務局長  
関西学院大学大学院  
経営戦略研究科准教授  
石田 寛 様



集合教育風景の写真

#### ■アンリツグループ行動規範・ケーススタディシートの発行

- ・ アンリツグループ行動規範  
アンリツグループ企業行動憲章に則り、アンリツグループ社内で業務に従事するすべての人が日頃とるべき行動指針として策定しています。国内アンリツグループのみならず、海外アンリツグループ各社でも各国の法律や慣習に準拠した行動規範の策定をしています。特にイギリスにあるAnritsu EMEA Ltd.では、2008年度に完成した簡易版の行動規範 (Code of Conduct) を使用して、社員の教育を2009年度に実施しました。さらに、他の欧州の国々へ行動規範を展開するために、それぞれの国の言



## リスクマネジメントの推進

- CSRホーム
- CSR報告2010
- トップコミットメント
- CSRマネジメント
- CSRの考え方
- アンリツのCSR達成像
- 達成像1  
安全・安心で快適な社会構築への貢献
- 達成像2  
グローバル経済社会との調和
- 達成像3  
地球環境保護の推進
- 達成像4  
コミュニケーションの推進
- 2009年度の実績、  
2010年度の目標
- 事業概要
- 第三者意見  
第三者意見を受けて
- 編集方針

▶ コンプライアンスの定着

▶ リスクマネジメントの推進

▶ サプライチェーンマネジメント

▶ 人権の尊重と多様性の推進

▶ 人材育成

▶ 労働安全衛生

▶ 社会貢献活動の推進

アンリツは、主要リスクを(1)経営の意思決定と業務の執行に係るリスク、(2)法令違反リスク、(3)環境保全リスク、(4)製品・サービスの品質リスク、(5)輸出入管理リスク、(6)情報セキュリティリスク、(7)災害リスクであると認識しており、リスクごとにリスク管理責任者を明確にして、リスクの分析評価を行うとともに、規則・ガイドラインの制定、教育研修の実施などリスク管理レベルの向上と事業の継続発展を確保しています。

### 内部統制を通じた企業価値の向上

アンリツは、事業をグローバルに展開していくうえで、目標達成の阻害要因(リスク)を適切に管理・対処し、競争優位の源泉に変えていくことが重要と考えています。このため、内部統制システムの整備により確立した国内外のグループ会社との連携をさらに強化し、リスクマネジメントシステムを高度化することで、企業価値の向上につながる取り組みへとステップアップさせていくことを目指します。

#### ■ 2009年度の取り組み

2009年度は、内部監査部門であるグローバルオーディット室を中心に、グループ会社への支援も含めた体制の強化を行いました。また、主要なグループ会社には内部監査専任者を置き、各グループ会社が前年度よりもさらに自立したかたちで各社の評価・監査を実施し、グローバルなリスクマネジメント体制の骨格を構築しました。評価プロセスにおいて発見された不備は、前年度よりも大幅に減少し、内部統制委員会を通じて適切な改善措置を行った結果、2010年3月期の全社的な経営理念や倫理観、会計方針や手続きの統制、IT基盤の統制、財務報告に関連する業務プロセスにおける統制について、国内外の子会社も含めたアンリツグループの統制状況は、前年度に引き続き有効との評価を監査法人から得ました。

#### ■ 今後の取り組み

今後は、国内外のグループ各社との連携のさらなる強化や、内部統制システムを通じた効果的なモニタリングにより、主要なオペレーショナルリスクの認識の共有や適切なコントロールの設定を目指します。また、グループ全体でこのようなリスクマネジメントが定着した風土を醸成することにより、リスクマネジメント体制の高度化を目指します。

### 情報セキュリティ管理

アンリツでは情報セキュリティ管理のため、有効性評価とリスク管理のフレームワークを用いながらセキュリティ維持・向上への取り組みを継続的に実施しています。

2009年度は定期的なリスク評価と発生したセキュリティ事象からリスクの高い項目に関し、以下の低減活動を行いました。

#### ■ 情報システムのBCP

本社地区には日本国内グループ会社で利用する情報システムが1箇所のサーバームに管理されています。今までサーバームは3階に設置されており、地震の影響を受けやすい環境でした。また、空調や消火設備も老朽化が進み、設備としてリスクを抱えていました。2009年度は新たに地震の影響を受けにくい1階にサーバームを移設し、サーバを設置するラックには免震機能を追加しました。また、空調などの付帯設備は置き換え、災害からのリスク低減を図り情報システムのBCP※を推進しました。

※BCP (Business Continuity Plan) : 事業継続計画

#### ■ インターネットWebサイトのセキュリティ向上

アンリツグループでは日本および海外の主要拠点毎に、インターネットにWebサイトを掲載して顧客に商品などの情報提供を行っています。このウェブサイトはインターネットからの様々な脅威にさらされており、セキュリティリスクの高いシステムです。2008年度はサイト毎にセキュリティ対策を講じてきましたが、国によって管理レベルにばらつきがあり、グローバルにセキュリティリスクを低減するまでに至りませんでした。そこで、2009年度は今まで各国で運営していたサイトを1つのサイトに統合し、管理することで、セキュリティリスクを低減しました。

#### ■ 販促用機器等におけるウイルス対策

昨今、ネットワークから進入するウイルスだけではなく、USBメモリ等の外部メモリ経由で感染するウイルスが猛威を振るっています。今までネットワークに接続しなければ、感染を免れていた製品でも、外部メモリを接続可能にした製品では、ウイルス感染のリスクが高まっています。そこでお客さまに販促用機器等を貸し出す際、製品がウイルスに感染していないことを確認するプロセスを改善しました。

#### ■ サーバ統合による可用性向上とグリーンITの実現

国内アンリツグループではサーバ仮想化技術とブレードサーバ※<sup>1</sup>を活用したサーバ統合を推進しています。これにより管理の標準化と消費電力量の削減を図っています。2009年度の実績でサーバ数を約1/2にすることができました。引き続き、統合を推進し、サーバ台数を削減し、電力の削減を進めグリーンIT※<sup>2</sup>を実現していきます。

※<sup>1</sup>ブレードサーバ: 高密度に設置可能なサーバ

※<sup>2</sup>グリーンIT: ITそのものの環境負荷低減、IT活用による環境負荷低減

#### ■ 社員教育・啓発活動の推進

情報セキュリティに関する一般社員向け教育では、伊藤忠テクノサイエンスさまに、「インターネットにおける脅威」についてご講演いただき、多くの社員が聴講しました。また、毎月発行されるコンプライアンス「ケーススタディシート」を利用して、具体的な事例をとりあげ情報セキュリティの重要性を啓発しています。日本国内グループの新入社員教育については、日本国内グループ全体で集合情報セキュリティ教育を実施し、営業秘密管理、情報セキュリティの重要性やネットワーク機器利用の心構えを教育しました。



[▲ ページ先頭へ戻る](#)

## サプライチェーンマネジメント

[CSRホーム](#)[CSR報告2010](#)[トップコミットメント](#)[CSRマネジメント](#)[CSRの考え方](#)[アンリツのCSR達成像](#)[達成像1  
安全・安心で快適な社会構築への貢献](#)[達成像2  
グローバル経済社会との調和](#)[達成像3  
地球環境保護の推進](#)[達成像4  
コミュニケーションの推進](#)[2009年度の実績、  
2010年度の目標](#)[事業概要](#)[第三者意見  
第三者意見を受けて](#)[編集方針](#)[コンプライアンスの定着](#)[リスクマネジメントの推進](#)[サプライチェーンマネジメント](#)[人権の尊重と多様性の推進](#)[人材育成](#)[労働安全衛生](#)[社会貢献活動の推進](#)

取引先さまとの信頼関係を強化し、お互いの成長につなげていくことが重要と考えています。取引先さまにさまざまな活動に参画いただき、強固なパートナーシップを構築していくこと、さらにサプライチェーン全体で社会の期待・要請に答えていくことを重視しています。

## 取引先さまへのはたらきかけ

## ■アンリツ資材調達基本方針および取引先さまへのお願い事項

アンリツでは、今後社会的責任を果たしていくには、グループ内だけでなく取引先さまも含めたサプライチェーン全体で活動を展開する必要があると考えています。2006年1月に「資材調達基本方針」を改訂し、さらに取引先さまにおいて取引先さまにお願いすべき事項についても明確に定め、2007年度は、国内外におけるグループ会社調達拠点での共通した「方針およびお願い事項」として統一化を進め、2009年度には「資材調達基本方針」に、“環境への配慮”を新たに追加しました。

## ■資材調達基本方針

1. 取引先さまの選定  
公平かつ公正な考え方で、国内外を問わず常に新しい取引先さまに広く門戸を開放し、品質・価格・納期、環境対応などを重点に、適正な基準でかつ客観的な立場でお取引先さまを選定します。
2. パートナーシップ  
すべての取引先さまとは健全な取引を通じて相互に利益のある協力的な関係を築くことを前提としています。
3. 法遵守、機密保持  
取引にあたっては、関係する諸法規を遵守します。またお取引を通じて、取引先さまから得た情報を、承諾なしに第三者に公開いたしません。
4. 倫理概念に基づいた行動  
調達業務にあたる者は、取引先さまと個人的な利害関係を持つことなく常に公明正大な業務の遂行をはかり、お取引先さまとの健全な関係を持続することを基本としています。
5. 人権と労働への配慮  
当社は人権を尊重し、労働衛生と安全確保に取り組んでおります。お取引先さまにもご賛同いただき、サプライチェーンとして、推進します。若年労働者の使用や人種、性別による差別など人権上の問題があれば、お取引を見直すこともあります。
6. 環境への配慮  
当社は「グリーン調達ガイドライン」を定め、環境に配慮された部材や材料を調達するグリーン調達を推進します。

## ■お願い事項

1. 法令・社会規範の遵守  
関連法規等の遵守、児童労働、強制労働、低賃金労働の禁止、差別の禁止、反社会勢力との取引の禁止
2. 環境への配慮  
弊社グリーン調達ガイドライン、環境要求伝達事項等に沿った環境対応の実現
3. 優良な品質の確保、適正価格での提供、確実な納期遵守
4. 機密情報の漏洩防止および知的財産の尊重
5. 不測の事態への迅速な対応とタイムリーかつ的確な情報開示

アンリツ(株)では、サプライチェーンを機軸としたCSR活動の展開が必要であることから、予算説明会や担当執行役員名でのお願い通知などを通じ、取引先さまに対して、上述した「調達基本方針」および「お願い事項」を理解・周知していただくことに努めています。

そして、2008年度には、取引先さまへのCSRに関する監査をすべく監査シート(和文・英文)を作成するなど、品質および環境監査とともに、CSRの監査をしていく環境・体制の整備を着実に進めています。

そして、2009年度から、取引先さまへの品質および環境監査の中に、CSRに関する内容を追加した監査を開始し、CSRの構築に向けた環境・体制の整備を継続して進めています。

今後、「アンリツ CSR調達ガイドライン」の策定に取り組み、更なるCSR活動の充実を図っていきます。

## BCP(事業継続計画)への取り組み

SCM(サプライチェーンマネジメント)本部では、主にサプライチェーンのBCPについて、災害・事故を想定して、組織体制や重要業務の抽出、リスクと被害の想定などを盛り込み、神奈川県厚木市のアンリツ(株)と福島県郡山市にある郡山事業所および東北アンリツ(株)が連携する計画を策定し

ました。  
今後、効果を確認するために監査体制の構築と訓練を実施する予定です。



## 提案を通し社会に貢献する パートナーとして

丸文株式会社  
営業第2本部 営業第2部 第1課  
佐々木 滋正 様

電子部品の納入を通し、アンリツさまと弊社は長年のお取引があります。日頃から情報交換、共有などを通し、単なるメーカーと取引先ではなく、パートナーとして活動させていただいている実感を持ちながら活動しています。取引先である我々の意見を取り入れ、より良い関係の構築やビジネスの改善を提案できるパートナーQU活動は大変興味深いと感じています。弊社では、営業担当者以外からの意見も集め、より多くの提案を差し上げることを目標に取り組んでいます。このように、お互いの発展に繋がることを提案できる機会はなかなか無いと思いますので、是非広くこの活動の提言を行われてはいかがでしょうか。弊社も、お客さまに選ばれるパートナーであるために、サプライチェーン全体でのCSRを経営目標にしています。アンリツさまの「資材調達基本方針」や「お願い事項」の理念に基づき、ご指導やご支援・ご助言をいただきながら弊社のCSR活動も向上させ、同時に、アンリツさまの製品がお客さまから高い評価と支持が得られるよう努めたいと考えております。

### 関連ページ

- [サプライチェーンマネジメントの推進](#)

[▲ページ先頭へ戻る](#)

## 人権の尊重と多様性の推進

- CSRホーム
- CSR報告2010
- トップコミットメント
- CSRマネジメント
- CSRの考え方
- アンリツのCSR達成像
- 達成像1  
安全・安心で快適な社会構築への貢献
- 達成像2  
グローバル経済社会との調和
- 達成像3  
地球環境保護の推進
- 達成像4  
コミュニケーションの推進
- 2009年度の実績、  
2010年度の目標
- 事業概要
- 第三者意見  
第三者意見を受けて
- 編集方針

▶ コンプライアンスの定着

▶ リスクマネジメントの推進

▶ サプライチェーンマネジメント

▶ 人権の尊重と多様性の推進

▶ 人材育成

▶ 労働安全衛生

▶ 社会貢献活動の推進

グローバルな事業展開および働き方の多様化に伴い、人権の尊重と多様性に配慮した働きやすい職場づくりの推進はますます重要になっていきます。人材の採用や組織内のコミュニケーション活性化の観点からも、多様な人材が働きやすい制度・職場環境の整備を重視しています。

### 人権の尊重と多様性の推進

#### ■ 社員データ

アンリツ株式会社社員データ

#### アンリツ(株)社員データ

		2007年度	2008年度	2009年度
社員数 ( )は幹部職数で内数	男性	938 (224)	745(167)	719 (171)
	女性	136 (4)	128(5)	112 (5)
	計	1,074 (228)	873(172)	831(176)
平均年齢	男性	41.7	40.4	40.1
	女性	34.9	34.8	35.8
	計	40.8	39.6	39.5
平均勤続年数	男性	18.1	16.6	16.4
	女性	12.1	12	13.3
	計	17.3	15.9	15.9
年間所定労働時間数		1,867.75	1,860.00	1,860
平均年次休暇取得日数		14.9	14.1	11.2
育児休職取得者数		8	14	11
雇用延長者数 (定年到達者の継続雇用)	対象者数	24	30	16
	延長者数	20	14	5

#### グローバルにみた女性の活躍状況

	日本	米州	EMEA	アジア他	グローバル計
全社員に占める女性社員の比率 (女性社員数/全社員数)	13%	31%	22%	31%	23%
男性を100とした女性の幹部職登用率 ((女性幹部職数/女性社員数)/ (男性幹部職数/男性社員数))	19%	64%	74%	33%	50%

#### ■ 障がい者雇用状況の推移

2009年度は新たに一人の雇用を実現し、2009年12月末の雇用率は1.76%と昨年比ではかなり改善しましたが、法定雇用率達成にはあと一歩足りませんでした。2010年度も採用活動を地道に継続し、障がい者と職場が相互に協力して能力を発揮できる職域の開拓の促進により、障がい者がより働きやすい職場づくりを目指します。

#### 障がい者雇用の推移

	2007/12	2008/12	2009/12
目標雇用率(単独)	1.80%	1.80%	1.80%
実績雇用率(単独)	1.84%	1.59%	1.76%
参考：実績雇用率(国内連結)	1.57%	1.44%	1.37%

■ 人権啓発活動の状況および今後の予定

人権啓発については、階層別研修や企業倫理月間、コンプライアンス推進強化週間の取り組みなどを通じて、日常注意が必要な差別問題、セクハラ・パワハラ問題などに関する社内外の状況を理解し、職場でのコミュニケーションの改善に努める活動を行いました。

■ 両立支援の実施状況

3か年計画を遂行し不足している制度の充実を図っていきます。

アンリツ（株）第2 期次世代育成支援行動計画 計画期間（2008.4.1 ～2011.3.31）

目標	対策
男女共同参画の観点から、育児休職を希望する社員が、男女ともに安心して育児参画できる環境を整備する。	「育児休職制度の拡充」等
一時的な保育への支援として、育児サービス利用者に対する利用料補助制度を拡充する。	「自治体のファミリーサポートセンター利用者に対する利用料補助の実施」
仕事と育児の両立がより一層図れるように、両立支援関連制度の周知および社員への理解促進を行う。	「育児関連諸制度のガイドブックの作成・配布」等

■ 採用のボーダレス化

アンリツ(株)と国内グループ会社では、海外における大学主催のジョブフェア\*への参加や日本国内における留学生の採用など、国籍にこだわらない採用を推進し、2009年12月末時点で28名が日本国内の職場で働いています。

\*ジョブフェア: 求職者と複数企業の情報交換、相互理解の場



一段上に上がるために日々勉強

アンリツ株式会社  
R&D統轄本部第2商品開発部  
林 維蓉

日本語と日本の技術を学びたいと考え、8年前にマレーシアから来日しました。大学などを経て、アンリツに入社して2年目になります。現在は携帯電話端末の開発や製造で使われる計測器の開発チームの一員として働いています。日本語での会話は友人の間では問題ありませんが、職場の先輩や上司に対する日本語特有の丁寧語や謙譲語の使い方には苦労しています。また、仕事で出会う専門用語はまだわからないことが多く、難しさを感じます。そんな時は、まずは自分で考えたり調べたりして、どうしてもわからないときは周りの方に聞きます。職場の先輩方はとても丁寧に教えてくださり、感謝しています。中でも、同期の後藤さんは特に何でも聞きやすく、頼りになる存在です。勉強は学生時代で終わりではなく、むしろ会社に入ってからの方が多くを学ばなければ成長できません。責任を自覚し、周りの人たちに迷惑を掛けないよう日々勉強することが今の私のやるべきことだと思っています。仕事も社会人としても一段上に上がるために、これからも知識を磨いて、自分の専門性を高めていきたいと思えます。

■ 社員とのコミュニケーション活性化

社員満足度調査を通して、経営に対する理解、会社の諸制度、職場のコミュニケーション、仕事のやりがいなどを把握しています。2009年度は、アメリカ、ヨーロッパ、アジアパシフィック、日本で実施し、各地域での課題抽出、改善計画の立案・実行を進めています。

[▲ページ先頭へ戻る](#)

## 人材育成

## CSRホーム

## CSR報告2010

トップコミットメント

## CSRマネジメント

## CSRの考え方

アンリツのCSR達成像

## 達成像1

安全・安心で快適な社会構築への貢献

## 達成像2

グローバル経済社会との調和

## 達成像3

地球環境保護の推進

## 達成像4

コミュニケーションの推進

## 2009年度の実績、

## 2010年度の目標

## 事業概要

## 第三者意見

第三者意見を受けて

## 編集方針

▶ コンプライアンスの定着

▶ リスクマネジメントの推進

▶ サプライチェーンマネジメント

▶ 人権の尊重と多様性の推進

▶ 人材育成

▶ 労働安全衛生

▶ 社会貢献活動の推進

アンリツは、社員が成長実感を得られる組織になっていくことが重要と考えています。社員が仕事を通じて成長できる環境づくりを継続的に進めています。

## 人材育成

## ■ グローバル人材育成

アンリツでは、異なる言語、文化、価値観とともに幅広い視野を習得し、グローバルに活躍できる人材を育成するために、長期、短期のプログラムを実施しています。

## 3ヶ月間のアメリカ出張から学んだこと

アンリツ株式会社  
貿易管理部  
伴田 浩軌



グローバル人材交流プログラムを利用し、アメリカへ3ヶ月間出張してきました。

出張中、私が感じたことは次の3点です。1.挨拶をきちんとすること、2.分からないことは分からないと相手に伝え、積極的に質問すること、3.自分で考え行動すること。

3.については、私の苦手なところの1つでしたが、日本で仕事をしている時以上にこのことを強く感じました。

また、1.の挨拶については実は言うほど簡単なことではありません。日本人は、廊下や職場で会っても無言ですれ違う場合が多いですが、アメリカではすれ違う人はほとんど挨拶を交わしていました。簡単な言葉でもそこから生きた会話が始まり、相手への緊張感もほぐれてくるのです。仕事にも悪い影響を与えるわけはありませんよね。

また、きちんと相手の目を見て会話することも重要だと改めて感じました。

出張当初は慣れない地で不安もありましたが終わるころには、公私ともにやりたいことが増えてきて、もっと時間があればよいのにと感じていました。出張が充実していた証拠だと思います。現地で感じたこと、学んだことを今後の仕事や人生に生かしていきたいと考えています。

## イギリス駐在の成果

アンリツ株式会社  
アンリツエメアリミテッド(イギリス)出向  
軽部 敏和



希望していた海外駐在が実現し、イギリスへ赴任して早くも2年が過ぎました。私の主な業務は、欧州でのキャッシュマネジメントや銀行対応、会社の取締役会の取りまとめなど、法的事項の管理です。赴任当初は英語もままならず、ここで仕事をしていけるのかと絶望的にもなりましたが、日々苦労しつつも楽しい仲間にもまれて、ここまでやってくることができたと思います。英語力に関しては、赴任当初から比べると雲泥の差になったと言えるほどです。

着任して2ヶ月後に出席した会議では、内容の95%以上を理解できず、会議を終えて帰宅する頃は頭の中が真っ暗だったことを覚えています。同様の会議に今出席すると、100%ではありませんが、ほぼ理解できるようになっています。

今後の課題は、日常の雑談レベルの英語にも慣れることです。本当の意味での異文化交流は、そのような部分から発展していくのではないかと考えているので、さらに磨きをかけてこの海外赴任がより実りあるものになるよう、日々取り組んでいきたいと思っています。

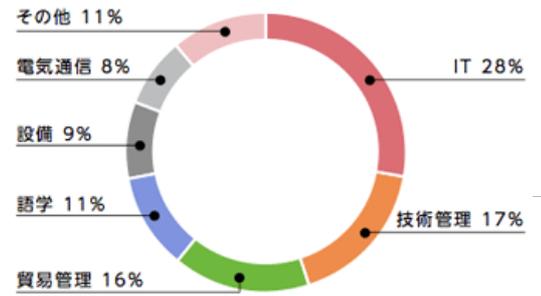
■表彰制度による業務に役立つ資格取得の推進

アンリツには、“ハイパフォーマー賞”という社員表彰制度があります。この制度は、著名な学会での研究発表や、ボランティア、スポーツなどによる会社のブランドイメージ向上の他に、業務に役立つ資格を取得した社員を表彰するプログラムです。過去3年間で合計130名の社員が自らの努力で業務に役立つ資格を取得しました。

2009年度は全グループ会社の表彰制度を見直しし、2010年度から新たな枠組みで実施する予定です。

このような表彰制度と通信教育などの自己啓発プログラムによって、社員が自ら知識を高める環境の整備を進めています。

資格の内訳（2007年度－2009年度）



[▲ページ先頭へ戻る](#)

## 労働安全衛生

- CSRホーム
- CSR報告2010
- トップコミットメント
- CSRマネジメント
- CSRの考え方
- アンリツのCSR達成像
- 達成像1  
安全・安心で快適な社会構築への貢献
- 達成像2  
グローバル経済社会との調和
- 達成像3  
地球環境保護の推進
- 達成像4  
コミュニケーションの推進
- 2009年度の実績、  
2010年度の目標
- 事業概要
- 第三者意見  
第三者意見を受けて
- 編集方針

▶ コンプライアンスの定着

▶ リスクマネジメントの推進

▶ サプライチェーンマネジメント

▶ 人権の尊重と多様性の推進

▶ 人材育成

▶ 労働安全衛生

▶ 社会貢献活動の推進

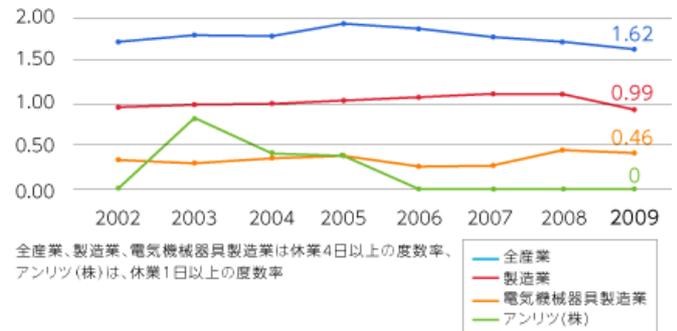
アンリツは、社員尊重の立場から『安全第一』と『健康保持増進』を安全衛生活動の基本理念とし、快適職場の維持に努めています。

### 安全衛生の取り組み

国内アンリツグループでは、労働安全衛生法に基づく安全衛生管理体制を確立し、主に次の取り組みを実施しています。

- 安全衛生委員会での活動状況の確認や災害防止策の立案
- 機械設備の導入・移動・変更時および化学物質購入時の事前審査による災害リスク低減
- 階層別教育やリスクアセスメント等の目的別研修を通じた安全衛生意識の高揚
- 作業環境測定や職場巡視による安全・安心で快適な職場づくり

労働災害度数率推移(100万時間当たり)



リスクアセスメント実務者研修会



交通KYT研修会



救命講習会

### 労働災害発生状況

国内アンリツグループでは、2009年度は、2008年度に引き続き休業災害「ゼロ」を達成しました。また、アンリツ(株)厚木地区では2010年3月末で無災害労働時間1,093万時間となり現在も更新中です。

#### 第2種無災害記録証を授与

2009年10月16日、アンリツ(株)厚木地区は、第2種無災害労働時間1050万時間を樹立。2010年3月1日、厚生労働省 労働基準局から第2種無災害記録証を授与されました。今後も安全衛生委員会を中心に、社員の身のまわりに起こりうる危険の防止、安全性の確保を推進し、次の目標である第3種の1580万時間に向け取り組んでいます。



### 健康管理

国内アンリツグループでは、産業医、産業カウンセラーを中心とする産業保健スタッフが、全社員の健康に関して、主に次の支援活動を行っています。

- 健康診断の実施(定期、特殊、雇入時、海外派遣者)とフォローアップ
- 長時間残業者の問診票によるスクリーニングと産業医面談および健康確保措置の実施

- 生活習慣病予防等の健康啓発活動、メンタルヘルスケアを目的とする教育・カウンセリング 2009年度は特にメンタルヘルスケアに重点を置き、入社2年目社員・グループリーダー・管理者の各階層別にメンタルヘルス研修会を開催し、メンタルヘルス対策の充実に努めています。



### 現場交流により 正しい健康理解を啓発

アンリツ株式会社  
産業医  
三橋 健次郎

アンリツでは2007年から産業医として週1日勤務し、社員の健康管理や健康相談、メンタルヘルスに関わるさまざまな支援をしています。アンリツの産業保健スタッフの一員でありながら、一医者立場であるという、その2つのバランスを取ることが難しくもありますが、大事にしている点です。産業医の業務は、本来は病気の治療ではなく、予防することだと考えています。最近増えてきているメンタルトラブルも早めの処置が有効です。さまざまな健康に関する正しい理解を深めていただくために、もっと現場で働く方との交流や定期連絡会、生活習慣病の啓発をはじめ、アンリツにあったメンタルヘルスや復職支援プログラムを作っていきたいと思っています。アンリツは、社員を大切にする人情味が溢れたい会社だと感じています。その社員のストレスを少しでも軽減できる仕組みづくりは、予防医学上とても重要です。私も医学の知識を持つ産業保健スタッフとして、心身の健康と快適な職場環境づくりに貢献していきたいと思っています。

[▲ページ先頭へ戻る](#)

## 社会貢献活動の推進

- CSRホーム
- CSR報告2010
- トップコミットメント
- CSRマネジメント
- CSRの考え方
- アンリツのCSR達成像
- 達成像1  
安全・安心で快適な社会構築への貢献
- 達成像2  
グローバル経済社会との調和
- 達成像3  
地球環境保護の推進
- 達成像4  
コミュニケーションの推進
- 2009年度の実績、  
2010年度の目標
- 事業概要
- 第三者意見  
第三者意見を受けて
- 編集方針

▶ コンプライアンスの定着

▶ リスクマネジメントの推進

▶ サプライチェーンマネジメント

▶ 人権の尊重と多様性の推進

▶ 人材育成

▶ 労働安全衛生

▶ 社会貢献活動の推進

アンリツが事業活動を行っていく上で、地域との良好な関係は欠かせない要素と考えています。『青少年教育との連携』、『地域社会への貢献』、『環境推進活動』の3つを柱とした地域密着型の社会貢献活動を軸に、社員が主体的に参画できる活動を継続的に展開しています。

### 青少年教育との連携

#### ■ 神奈川県厚木市教育委員会主催「おもしろ理科実験教室」

青少年の『理科離れ』が指摘される中、アンリツ(株)は神奈川県厚木市の呼びかけに応じ、子どもたちに豊かな体験を通して理科・科学に対する興味を高めてもらうことを目的とした「おもしろ理科実験教室」を近隣の小学校2校で実施しました。2009年度も前年同様、「電池の仕組み」をテーマにしました。子どもたちに興味をもってもらうために、三洋電機株式会社さまのご協力をいただき「人間電池」の実験を授業の目玉にしました。「電池」をテーマに電気の基本知識の解説や全員参加型の実験を行いました。各校から、子どもたちの感想や感謝のメッセージをいただきました。



感謝状メッセージ



実験風景

#### ■ 中学生の職場体験学習

神奈川県厚木市の中学校では、生徒が地域の企業や商店で実際に仕事を体験する「職場体験学習」を実施しています。アンリツ(株)は、職場体験学習を通して働くことの意義や実社会を知る機会を提供するため、毎年生徒を受け入れています。2009年度は、近隣の1校がアンリツで職場体験を行いました。アンリツテクマック(株)では金属加工の工程を、アンリツ産機システム(株)では部品の調達から製造、検査、出荷までの各工程を見学し、ものづくりの現場を体験しました。アンリツ興産(株)のリサイクルセンターでは、責任者からリサイクルの目的や仕組みについて説明を受けたあと、現場の社員の指導でパソコンの解体に挑戦しました。



パソコン解体実験の写真

#### ■ 小学生の会社見学

社会学習の一環として、地域の会社がどのような製品を作り、どのような仕事をしているかを学ぶことを目的に、本社近隣の小学校3年生約130名がアンリツ(株)を訪問しました。アンリツグループの仕事を学んだ後、ものづくりの現場から社員食堂まで興味深く見学しました。



会社概要の説明



アンリツテクマック(株)でものづくりを学習



社員食堂の説明

#### ■無線通信計測・特別講義を開催

アンリツ(株)は、経済産業省が主導するITエレクトロニクス分野の『産学人材育成パートナーシップ事業』に参画しています。その一環として、東京工業大学の特別講義がアンリツ(株)本社で行われ、講師とサポートスタッフ、演習用計測器の提供で協力しました。23名の学生が携帯電話の多様な通信技術をはじめ、地上デジタル放送技術、デジタル通信技術など8つの項目について、実践的な技術を習得する上で必要となる基礎知識を学びました。

#### ■青少年育成に貢献

社員が地域の青少年育成のために、さまざまなボランティアを行っています。



### 楽しみながら成長を見守りたい

アンリツ計測器カスタマーサービス株式会社  
経営管理部  
堀田 哲郎



私は18年前から神奈川県厚木市小鮎地区の青少年指導員として、小鮎川周辺での川遊びやキャンプなどを通して、青少年育成に携わっています。この長年の活動が評価され「平成20年度神奈川県青少年育成功労者表彰」をいただきました。子どもたちは未来を支える宝です。学校、家庭、そして地域が一体となって育てていくことが重要です。毎年成人式に出席しているのですが、一緒に遊んだ子どもから声を掛けられると本当にうれしいものです。地域の一員として、これからも一緒に楽しみながら子どもたちの成長を見守っていこうと思います。

## 地域社会への貢献

#### ■地元自治会とのコミュニケーション

地域社会の皆さまとより良い信頼関係を構築するため、アンリツ(株)本社に隣接した7つの自治会とのコミュニケーションを図る「第1回自治会連絡会」を2010年2月に開催しました。各地区の自治会長の皆さまを本社にご招待し、アンリツの事業活動と社会・環境との関わりを紹介した後、アンリツテックマック(株)、アンリツ産機システム(株)の生産現場、製品展示場、アンリツ興産(株)のリサイクルセンターを見学していただき、意見交換を行いました。今後も地域社会からのご期待に沿えるよう努力するとともに、コミュニケーションを継続していきます。

#### ■ユニセフ・NPO活動支援：外国コイン、使用済み切手・カードの収集

国内アンリツグループでは、使用済み切手・プリペイドカード、外国コインを集め、NPOの活動支援を行っています。使用済み切手・プリペイドカードは国際協力NGO日本国際ボランティアセンター(JVC)を通じ、カンボジアの農村支援に役立てられます。また、外国コインは(財)日本ユニセフ協会を通じ、世界の子どもの生命と健康、権利を守るために活用されます。

#### ■地震被災地への救援金募金

国内アンリツグループは、現地時間2010年1月12日にハイチ共和国で発生した地震および2010年2月27日にチリで発生した地震による被災者を支援するため、社員に救援金を募りました。救援金募金は国際人道支援組織「ジャパン・プラットフォーム」を通して救援活動にいかされています。また、アンリツ・カンパニー(アメリカ)では、ハイチ地震に対し、社員の募金とマッチングでアメリカ赤十字を通して寄付し、アンリツA/S(デンマーク)では、社員にインターネット募金への協力の呼びかけを実施しました。中国では、アンリツ・カンパニー・リミテッドが、2010年4月14日に青海省南部で発生した地震に対し、中国日本商工会を通じて救援金募金に協力しました。

#### ■ボスニアの動物たちの支援活動に協力

アンリツAB(デンマーク)の社員は、出身地であるボスニアの動物たちの支援活動に取り組んでいます。1990年代の紛争により放置された犬や猫たちを保護する動物愛護団体と協力し、募金活動やフリーマーケット、カレンダーの販売などを行っています。カレンダーは、デンマークやスウェーデンオフィスの社員も購入し、支援活動の輪を広げています。



今にも崩れそうな施設で暮らす犬たち フリーマーケットでのチャリティ販売

#### ■『マクミラン・コーヒー・モーニング』イベントに参加

アンリツ・エマ・リミテッド(イギリス)では社員が、1911年にイギリスで設立されたマクミランがん救済団体が主催する募金イベント『マクミラン・コーヒー・モーニング』に参加しました。集められた寄付金はマクミランがん救済基金に寄付され、がん医療に活用されます。



#### ■『メイク・ア・ウィッシュ』に参加

アンリツ・カンパニー(アメリカ)の社員は、毎年クリスマス休暇の頃に恵まれない子どもたちに玩具を贈る『メイク・ア・ウィッシュ』という活動に参加しています。2009年度もたくさんのプレゼントが子どもたちに贈られました。



#### ■『アダプト・ア・ファミリー』に参加

アンリツ・カンパニー(アメリカ)では、社員が力を合わせて地域の恵まれない家族にクリスマスプレゼントや食料などを贈る『アダプト・ア・ファミリー』という活動に参加しています。2009年度は、12月に13の家族に対してさまざまな品物を贈りました。

### 環境推進活動 (生物多様性保全)

アンリツは、生物多様性保全への取り組みの一環として、社員ボランティアを中心とした環境推進活動を実施しています。

#### ■緑の募金活動

アンリツ(株)本社内には、売上金の一部が「緑の募金」として寄付される自動販売機が設置されています。2009年度は苗木寄贈本数としてマサキ94本、ソメイヨシノ60本分に相当する募金が集まりました。これは森林整備面積で5,440㎡、また二酸化炭素吸収量に換算すると1,835kgになります。

#### ■富士山「緑の募金の森」緑化活動

地球温暖化が大きな社会問題となる中、環境保全に関わる活動として、国内アンリツグループの社員がリコーリース株式会社さまの呼びかけに応じ、富士山「緑の募金の森」緑化活動に参加しました。この活動は1996年の台風で破壊された富士山のふもとの森を80年かけて再生する計画です。社員のボランティア活動が環境改善に貢献する活動として2009年9月に実施しました。当日は雨天にもかかわらず100名以上の方が参加し、国内アンリツグループからは10名が参加しました。同行した子どもたちは「森林教室」に参加し、植物や虫を観察しながら森の大切さを学びました。



集合写真



森林教室

#### ■地域清掃活動

国内アンリツグループでは、アンリツ(株)本社、アンリツデバイス(株)棚沢工場、東北アンリツ(株)周辺の清掃活動を毎年実施しています。2009年度も多くの社員が参加し、会社周辺のごみ拾いや雑草の除去などを行いました。また、相模川クリーンキャンペーンなど地域の清掃活動にも参加するなど、地域の環境保全に取り組んでいます。



集合写真



作業風景

[▲ページ先頭へ戻る](#)

## 達成像3 地球環境保護の推進

- CSRホーム
- CSR報告2010
- トップコミットメント
- CSRマネジメント
- CSRの考え方
- アンリツのCSR達成像
- 達成像1  
安全・安心で快適な社会構築への貢献
- 達成像2  
グローバル経済社会との調和
- 達成像3  
地球環境保護の推進
- 達成像4  
コミュニケーションの推進
- 2009年度の実績、  
2010年度の目標
- 事業概要
- 第三者意見  
第三者意見を受けて
- 編集方針

### 達成像3

## 地球環境保護の推進

メッセージ

持続可能な地球の  
未来への貢献を目指し、  
環境経営を実践していきます

全文を読む>>

アンリツは、環境に配慮した商品の開発と生産を追求し、グローバル環境経営を推進することで、地球環境保護に積極的に貢献します。

- |                                 |                        |               |                         |
|---------------------------------|------------------------|---------------|-------------------------|
| ▶ エコマネジメント、エコマインド               | ▶ エコオフィス、エコファクトリー      | ▶ エコプロダクツ開発   | ▶ サプライチェーン<br>マネジメントの推進 |
| ▶ アンリツグループ環境負荷<br>マスパランス (09年度) | ▶ サイト別環境データ集<br>(09年度) | ▶ 環境会計 (09年度) | ▶ 環境管理活動の歴史             |

### 環境トップメッセージ



メッセージ

## 持続可能な地球の未来への貢献を目指し、 環境経営を実践していきます

アンリツ株式会社 取締役 執行役員  
**小熊 康之**

アンリツグループは、2010年4月から新経営体制となり、新たな経営方針の一つに「良き企業市民として人と地球にやさしい社会づくりに貢献」を掲げました。わたくしたちアンリツグループは、従来にも増して地球環境保護の重要性を認識し、持続可能な地球の未来への貢献を目指して環境経営を推進しています。

その推進活動の中でも、「地球温暖化防止」を最重点課題の一つと捉え、事業活動と商品の両面から取り組んでいます。事業活動においては、工場、オフィスでの省エネルギー活動を強化するとともに、老朽化した空調機の更新や省エネルギー機器の導入など設備面の取り組みを進めることでエネルギー効率を高めていきます。商品では、「省エネルギー化」、「省資源化」設計を徹底し、温室効果ガス排出量の削減に努めています。

また、地球温暖化防止に加えて極めて重要な課題として「生物多様性保全」があります。2010年は、名古屋で開催される『生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)』をはじめ、世界的な取り組みが加速しています。当社では「生物多様性保全」に対して、環境負荷低減活動と自然保護活動に取り組んでいます。環境負荷低減は、「省エネルギー化」、「省資源化」、「有害物質削減」を柱とした環境配慮型商品の提供と、お客さまが抱える環境負荷を直接改善するソリューションの提供を進めています。社内では、前者を“Green of Products”、後者を“Green by Solutions”と称し、展開を図っています。いずれも、商品設計から部品調達、製造、出荷、お客さままでの使用段階、そしてリサイクルまで、商品のライフサイクル全般にわたり、環境に配慮した取り組みを推進しています。一方、自然保護活動としては、社員ボランティアによる森林保護、地域のクリーン活動などに取り組んでいます。

これからは従来型の技術革新があつて事業がそれに追従していく発想ではなく、まず先に環境を中心とした社会の在り方を想定したうえで、イノベーションをおこしていく時代です。社員一人ひとりがエコマインドを高め、地球環境保護に基づいた新たなソリューションを生みだしていくという未来展望を描いています。

アンリツはステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションを進め、世界の皆さまから信頼される環境経営を実践していきます。

[▲ページ先頭へ戻る](#)

## エコマネジメント、エコマインド

CSRホーム

CSR報告2010

トップコミットメント

CSRマネジメント

CSRの考え方

アンリツのCSR達成像

達成像1

安全・安心で快適な社会構築への貢献

達成像2

グローバル経済社会との調和

達成像3

地球環境保護の推進

達成像4

コミュニケーションの推進

2009年度の実績、

2010年度の目標

事業概要

第三者意見

第三者意見を受けて

編集方針

▶ エコマネジメント、エコマインド

▶ エコオフィス、エコファクトリー

▶ エコプロダクツ開発

▶ サプライチェーン  
マネジメントの推進▶ アンリツグループ環境負荷  
マスパランス (09年度)▶ サイト別環境データ集  
(09年度)

▶ 環境会計 (09年度)

▶ 環境管理活動の歴史

アンリツはグローバルに環境経営を展開し、一人ひとりの『エコマインド』で『エコオフィス』『エコファクトリー』『エコプロダクツ』の実現に向けた取り組みを、さらに進めています。

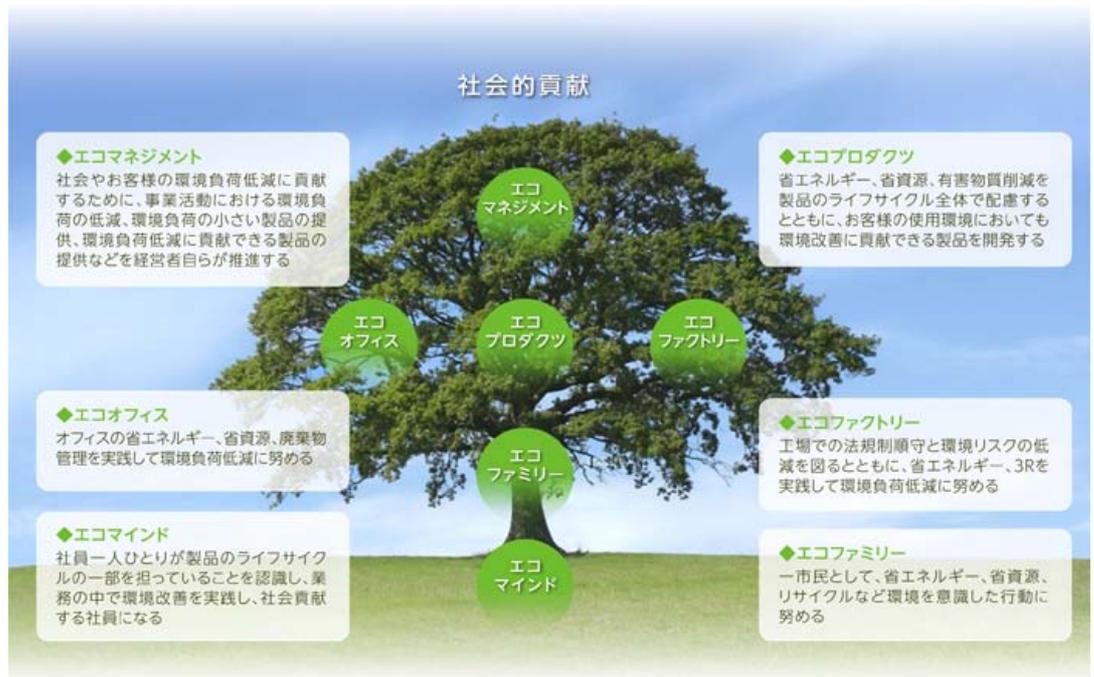


## アンリツグループ環境理念

アンリツは、環境に配慮した製品の開発と生産を追求し、誠と和と意欲をもって、人と自然が共存できる豊かな社会づくりに貢献します。

## 行動指針

一人ひとりの「エコマインド」で「エコオフィス」「エコファクトリー」「エコプロダクツ」を実現します。

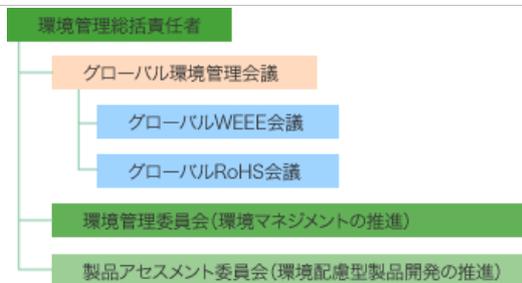


※地球環境保護の報告範囲は、アンリツ(株)および次のグループ会社です。

国内グループ会社：アンリツ産機システム株式会社、東北アンリツ株式会社、アンリツ計測器カスタマーサービス株式会社、アンリツデバイス株式会社、アンリツネットワークシステム株式会社、アンリツプレジジョン株式会社、アンリツエンジニアリング株式会社、アンリツ興産株式会社、アンリツテックマック株式会社、株式会社アンリツプロアソシエ  
海外グループ会社：Anritsu Company (アメリカ)、Anritsu Ltd. (イギリス)、Anritsu A/S (デンマーク)

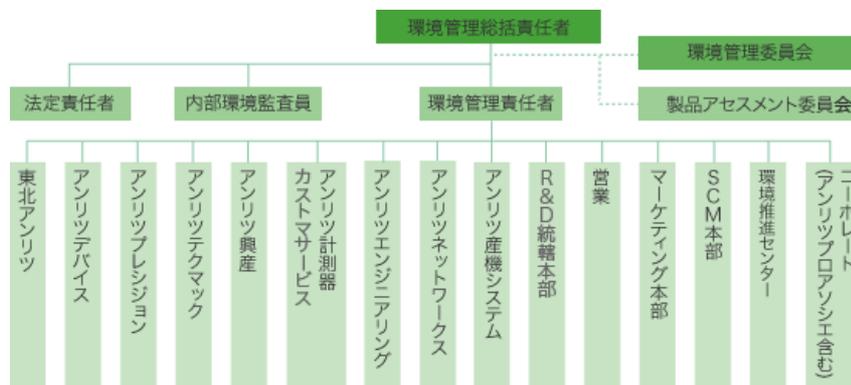
## 環境経営推進体制

欧州のRoHS指令やお客さまの環境要求への対応など、グローバルな取り組みの必要性が増しているため、環境経営推進体制を2005年度に見直し、2003年に設置したWEEE対策部会、RoHS対策部会の上位機関として、環境全般の事項を審議・決定するグローバル環境管理会議を設置しています。日本国内では、環境管理委員会、製品アセスメント委員会およびRoHSステアリングコミティーがあり、それぞれ環境マネジメントシステムの推進、環境配慮型製品開発の推進、製品の有害物質フリー化の推進を図っています。



■ 環境管理組織(日本)

国内アンリツグループの環境管理組織は、環境管理総括責任者(アンリツ(株)執行役員 環境推進センター長)をトップとして、グループ会社を加えた体制で環境マネジメント活動を推進しています。



■ 環境マネジメントシステム

登録会社

<p>アンリツ株式会社</p>  <p>本社</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンリツ株式会社(すべての営業拠点を含む)</li> <li>・アンリツ産機システム株式会社</li> <li>・アンリツ計測器カスタマーサービス株式会社</li> <li>・アンリツネットワークス株式会社</li> <li>・アンリツエンジニアリング株式会社</li> <li>・アンリツ興産株式会社</li> <li>・アンリツプレジジョン株式会社</li> <li>・アンリツテクマック株式会社</li> <li>・株式会社 アンリツプロアソシエ</li> <li>・アンリツデバイス株式会社</li> <li>・東北アンリツ株式会社</li> </ul>
<p>東北地区</p> 	<p>認証登録年月: 1998年8月 更新: 2007年8月 改訂: 2009年9月 認証機関: JQA/JQA-EM0210 (*) 東北アンリツ株式会社は1999年10月に単独で認証済みでありましたが2003年に統合いたしました。</p>
<p>Anritsu Company (アメリカ)</p> 	<p>所在地: 490 Jarvis Drive Morgan Hill, CA 95037 認証登録年月: 2007年3月 更新: 2010年3月 認証機関: NQA/EN12275</p>

■ 環境監査(日本)

2009年度の外部環境審査はISO14001 認証機関による定期審査を受けました。その結果は、不適合に相当する指摘はありませんでした。また、内部環境監査を年2回実施し、6月には環境マネジメントシステムの適合性、有効性、環境パフォーマンスの確認、11月には法の順守状況の確認を行い、それぞれ38件、11件の指摘がありました。グループの共通課題は、環境管理委員会で水平展開し、改善しています。

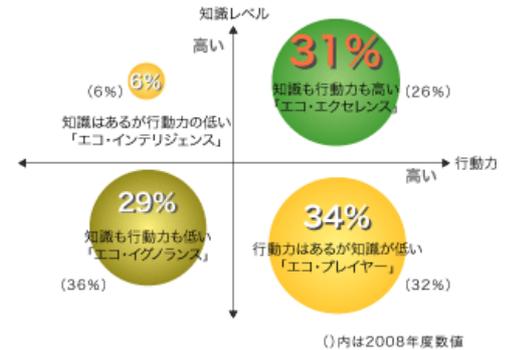
更にNEC関係会社相互環境審査を認証機関とは別の視点(環境経営の視点)での監査を厚木地区で受けました。これらの監査による課題の対応により、効率的な環境マネジメントシステム構築に努めています。



NEC関係会社相互環境審査における現場パトロール

## 社員への環境意識調査

エコマインドの浸透度を測るため、国内アンリツグループの全社員を対象に、環境意識調査を実施しました。2009年度は4回目の調査となり、環境用語の把握度と環境行動に関する回答から環境に対する知識と行動のレベルの相関を分析し、前回と比較しました。環境知識が高く行動も環境に配慮できている「エコ・エクセレンス」の割合も、31%（2008年度26%）と増加しました。分析結果に基づき、回答率および「エコ・エクセレンス」割合の向上のための教育・啓発を実施していきます。



## 小さな取り組みから環境意識を向上



地球環境保護活動で、省資源への取り組みは重要なテーマのひとつです。製品で使用する材料を削減していくことはもちろんですが、日々の業務でも資源の使用を抑制する策はいろいろあります。私は現在、印刷時のインク使用量を削減する試みとして、文字の書体にCentury Gothicの使用を推奨しています。ある調査では、Century GothicはArialに比べ、インク量が約30%も少ないと言われています。小さな取り組みですが、この試みを社内に水平展開し、社員の環境意識向上を図っていきます。

[▲ページ先頭へ戻る](#)

## エコオフィス、エコファクトリー

## CSRホーム

## CSR報告2010

トップコミットメント

CSRマネジメント

CSRの考え方

アンリツのCSR達成像

## 達成像1

安全・安心で快適な社会構築への貢献

## 達成像2

グローバル経済社会との調和

## 達成像3

地球環境保護の推進

## 達成像4

コミュニケーションの推進

2009年度の実績、

2010年度の目標

事業概要

第三者意見

第三者意見を受けて

編集方針

▶ エコマネジメント、エコマインド

▶ エコオフィス、エコファクトリー

▶ エコプロダクツ開発

▶ サプライチェーン  
マネジメントの推進▶ アンリツグループ環境負  
荷マシバ(09年度)▶ サイト別環境データ集  
(09年度)

▶ 環境会計(09年度)

▶ 環境管理活動の歴史



オフィスや工場から排出するCO<sub>2</sub>、廃棄物、有害化学物質の管理・削減をさらに推進し、総合的な環境負荷低減に取り組んでいます。

## エコオフィス、エコファクトリー

## ■ 工場・オフィスでの省エネルギー活動

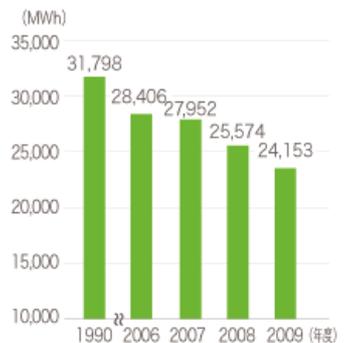
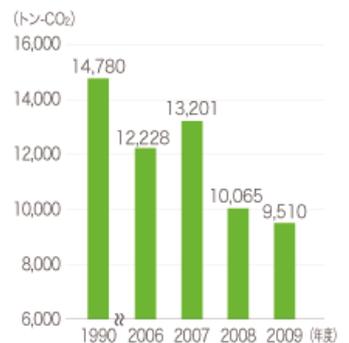
省エネルギーはCO<sub>2</sub>排出量を削減し地球温暖化防止へ寄与する重要なテーマです。アンリツが消費するエネルギーの約96% (CO<sub>2</sub>排出換算比) を占める電力の使用量を削減するため、継続的に省電力に努めています。これまで水蓄熱設備の導入、空調設備や照明設備のインバータ化、低損失型変圧器の導入、機器の省エネ機器への更新など設備面での対応や消灯や空調のフィルターの清掃をこまめに実施することなどで無駄な電力を削減し省エネルギーを推進してきました。また、2005年度からは、チーム・マイナス6%に参加し、クールビズ、ウォームビズ活動に取り組んでいます。2009年度は2008年度と比較して電気エネルギー使用量は5.6%削減となりました。空調設備を省エネルギータイプに更新したことや作業時間の短縮が主な要因です。

## 【参考】

全エネルギー使用によるCO<sub>2</sub>排出量(厚木地区+棚沢地区+東北地区) CO<sub>2</sub>排出量は、「地球温暖化対策の推進に関する法律」施行令(2006年3月29日改正公布)の換算係数を用いて算定しました。但し、電気エネルギーのCO<sub>2</sub>排出量は、各年度に電気事業連合会より公表されるCO<sub>2</sub>換算係数(トン/MWh)を用いて算出しています。(2009年度のCO<sub>2</sub>換算係数は、2008年度の値を暫定的に使用しています。)

CO<sub>2</sub>換算係数は年度によって増減があるので、電気エネルギーは削減しているがCO<sub>2</sub>排出量は増加している年度もあります。

(例:2007年度の換算係数は2006年度より10.5%増加)

■ 電気エネルギー使用量推移  
(国内アンリツグループ)■ 【参考】全エネルギー使用による  
CO<sub>2</sub>排出量(国内アンリツグループ)\*

## ■ アンリツ・カンパニー(アメリカ)のエコオフィス活動

2009年度、アンリツ・カンパニー(アメリカ)は、地元のガス・電力会社であるパシフィック・ガス&エレクトリック社(PG&E)が実施している夏季の電力需要対策プログラムに参加しました。電力需要対策プログラムとは、夏季に電力需要がピークになったときに、ガス・電力会社の要請に従い自社の電力使用量を抑える活動です。その貢献が高く評価され、ガス・電力会社より表彰を受けました。

## ■ 大気

厚木地区では、2000年に塗装工程を廃止したため、法、条例などの対象となる大気汚染に関わる施設はありません。

東北地区では大気汚染防止法の対象である重油ボイラーがありますが、自主管理基準に基づいた管理のもとに運用し、大気保全に努めています。また、棚沢地区では法、条例などの対象となる大気汚染に関わる施設はありません。

## ■ 騒音

設備導入前の事前審査制度、設備の始業時点検をはじめ、定期的な構内パトロールなどにより、異常の早期発見に努めています。

また、年に1回定期的に敷地境界線の騒音測定を実施していますが、法、条例はもちろんのこと、自主管理基準の超過もありません。

## ■ 法遵守状況

法や条例で規制があるものは、これより厳しい自主管理基準を設けて法遵守に努めています。2009年度は、厚木地区、棚沢地区、東北地区ともに

基準に対し低いレベルで推移し、水質・大気・騒音の法違反はありませんでした。事故については、厚木地区において空冷ヒートポンプチラーから冷媒ガス(フロン134a・フロンR-22)漏洩事故が連続して4回発生したことから、神奈川県から勧告の指導を受けました。いずれも原因を調査し再発防止策を講じ、適切に対応しました。環境問題に関しての訴訟、近隣からの苦情などはありませんでした。今後も定期的な保全活動により、法遵守はもちろんのこと環境負荷の低減に努めます。

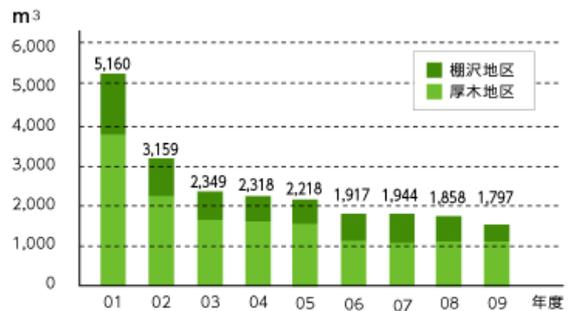
#### ■地下水の管理

有機塩素系物質については、1970年にトリクロロエチレンを、1993年に1,1,1-トリクロロエタンの使用を全廃しました。しかし、厚木地区および東北地区では、地下水を採取する井戸を保有しているため、有機塩素系物質6物質の分析を定期的実施し、監視を継続しています。2009年度も、厚木地区の井戸でテトラクロロエチレンに環境基準の超過がみられましたが、他は同基準を下まわっています。テトラクロロエチレンはアンリツでの使用実績がない物質であり、土壌分析でも当社による汚染ではないことが確認されています。今後も引き続き監視をしていきます。東北地区では、いずれも検出限界以下であり環境基準の超過がみられませんでした。今後も定期的な分析監視により、地下水の保全に努めます。

#### ■水資源

厚木地区では、過去にプリント板製造、塗装、めっきなどの工程で多量の水を使用していましたが、2002年にはこれらの処理を全廃し、有害物質を含む工程系排水は大幅に削減されました。棚沢地区ではデバイスの製造工程で有害物質を使用していますが、工程管理により水の使用量を抑制しています。また、東北地区では有害物質を使用する特定施設はありません。

工程系排水排出量



#### ■リスク対策

厚木地区では、無機系排水排出部門などからの排水を無害化するため、無機系排水処理設備を設置しています。2001年には、地中に埋設した槽が地震発生により壊れて、処理の完了していない水が漏洩し、土壌汚染を起こす可能性があることから、槽を二重槽に改造しました。2002年には、その設備の1つであるクラリファイヤータンク(前工程で生成した重金属を含む沈殿物を重力沈降で除去するタンク)の周辺に防液堤を設置し、地震などでタンクが破損した場合、タンクから漏洩した液が外部に漏洩せずに予備槽に流れ込む構造に変更しました。



クラリファイヤー

棚沢地区では、工程処理水のpHが法規制値を逸脱した場合、放流水の排出を停止させる緊急遮断弁が最終放流槽に設置されています。さらに、2003年には二重安全対策として、最終放流槽の前の槽にもpH警報装置を設置し、その時点で排水ポンプを停止するように改善しました。東北地区では、製造工程から出る水はありません。しかし、地震でボイラーなどから排出する水により、pHが法規制値を逸脱する可能性があることから、2001年にpHの監視装置と放流水の排出を停止する緊急遮断弁を設置し、対策を実施しました。



pH監視装置



緊急遮断弁

また、各地区では、人為的ミスや災害時に化学物質の漏洩事故が発生した場合を想定し、対応手順を作成しました。さらに、定期的な設備点検と訓練を実施し、万一の事故発生時に備えています。



緊急遮断弁の閉止



漏洩物の回収訓練

■化学物質管理

国内アンリツグループ会社で使用する化学物質については、事前評価制度による使用可否を決定しています。また、法規制、有害性などから使用禁止・使用抑制物質を定め、オゾン層破壊や地球温暖化の原因となる物質の使用を規制しています。各部門では、3か月ごとに使用している化学物質の購入量、使用量、廃棄量を端末に入力し、法令ごとの集計や、PRTR法対象物質の集計に利用しています。

アンリツグループ使用規制化学物質

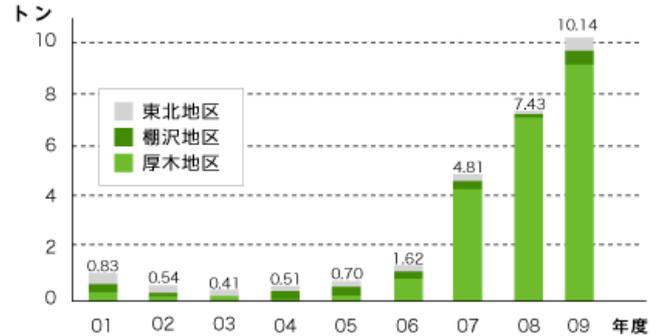
使用禁止物質	CFC (Chlorofluorocarbons), ハロン, 四塩化炭素, 1,1,1-トリクロロエタン, HBFC (Hydrobromofluorocarbons), ブロモクロロメタン, 臭化メチルの7物質群
使用抑制物質	HCFC (Hydrochlorofluorocarbons), トリクロロエチレン, テトラクロロエチレン, ジクロロメタン, HFC (Hydrofluorocarbons), PFC (Perfluorocarbons), SF6 (六フッ化硫黄)の7物質群

化学物質オンライン入力画面



PRTR法(特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律)については、厚木地区では、2006年からアンリツ産機システム(株)の製品に使用しているエポキシ樹脂の充填作業を段階的に内作化したため、ビスフェノールA型エポキシ樹脂(液状)の取扱量が増加し、2009年度8,974kg(2008年度5,663kg)と増加し、法に基づき届出をおこないました。棚沢地区、東北地区では届出対象となる物質はありませんでした。なお、ビスフェノールA型エポキシ樹脂(液状)は法の改正により2010年度からPRTR法の対象物質から外れました。今後も工程改善などを進め、PRTR法対象物質を含めて化学物質を削減し、環境汚染の防止に努めます。

PRTR物取扱い量



■PCB管理

厚木地区ではポリ塩化ビフェニル(以下「PCB」)を含有した電気機器コンデンサ、蛍光灯安定器、感圧複写紙を特別管理産業廃棄物の保管基準に従って、厳重に管理しています。毎年、PCB廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法(「PCB特別措置法」)に基づき、県に保管状況を届出していますが、2006年の特高変電設備更新時の分析の結果、大型変圧器2台に微量のPCBを含有していることが確認されました。なお、2005年度に日本環境安全事業株式会社に処理の早期登録申込みを行っています。



PCB保管場所



保管状態

■グリーンビジネスを推進

アンリツ・カンパニー(アメリカ)は、本社のあるサンタクララ郡のグリーンビジネスプログラムに参加しており、環境に配慮したビジネスを実行している企業として認定されました。グリーンビジネスは、環境法令の遵守、エネルギー・水・資源使用の節約、汚染の防止・廃棄物の抑制を事業活動の中で取り組むプログラムです。今後も地域のリーダとして、環境に配慮したグリーンビジネスを推進していきます。



写真左：グリーンビジネスラベル  
写真右：グリーンビジネスプログラム認定証

## 現在そして未来世代のために地球を守ります。

Anritsu Company  
QA/Audit Systems Manager  
**Cynthia Mann**



わたしたち社員は、グリーンビジネスプログラムやISO14001を守ることによる環境改善活動の重要性を十分認識し、会社だけでなく、各自の家庭においても環境保護への取り組みを推進しています。これからも、現在そして未来世代のために我々の地球を守ることに積極的に貢献していきます。

[▲ページ先頭へ戻る](#)

## エコプロダクツ開発

CSRホーム  
**CSR報告2010**  
 トップコミットメント  
 CSRマネジメント  
 CSRの考え方  
 アンリツのCSR達成像

達成像1  
 安全・安心で快適な社会構築への貢献

達成像2  
 グローバル経済社会との調和

達成像3  
 地球環境保護の推進

達成像4  
 コミュニケーションの推進

2009年度の実績、  
 2010年度の目標

事業概要

第三者意見  
 第三者意見を受けて

編集方針

▶ エコマネジメント、エコマインド

▶ エコオフィス、エコファクトリー

▶ エコプロダクツ開発

▶ サプライチェーン  
 マネジメントの推進

▶ アンリツグループ環境負荷  
 マスパランス (09年度)

▶ サイト別環境データ集  
 (09年度)

▶ 環境会計 (09年度)

▶ 環境管理活動の歴史



アンリツは、ライフサイクルシンキングに基づき、製品設計から部品調達、製造、出荷、お客さまでの使用段階、そしてリサイクルまで、製品ライフサイクル全般にわたり、環境に配慮した取り組みを推進しています。環境経営の柱の一つである環境配慮型製品の提供を加速させるのはもちろんのこと、社会問題として急浮上しているIT機器の消費電力増加に対しても、独自技術を生かした取り組みを意欲的に進めています。さらに、製品環境規制にはグローバルで対応し、すべての開発製品において設計の初期段階から質の高い製品アセスメントを実施しています。

### 製品環境規制へのグローバル対応

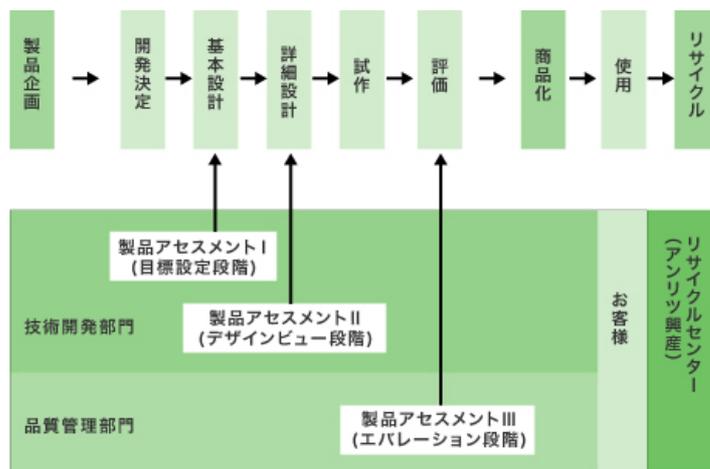
欧州連合 (EU) では2005年からWEEE指令、2006年からRoHS指令、2007年からREACH規則が施行されました。製品環境規制への対応は、猶予のない状況となっています。海外グループ会社とは、グローバル環境管理会議等を通じてコミュニケーションを図り、情報を共有するとともに対応の統一化も行っています。また、製品設計段階で考慮しなければならないErP (Energy related Products) 指令に対する事前の取り組みとして、グローバルで共通の製品アセスメント基準を作成し、海外拠点での環境配慮型製品の開発を推進しています。

### グローバル製品アセスメント実施ガイドライン

これまで、環境に配慮した製品の開発は、国内アンリツグループ会社では製品アセスメントとして、アンリツ・カンパニー (アメリカ) ではDfE (Design for Environment) として個別に取り組んできましたが、アンリツグループ各社がグローバルに同一な基準で環境に配慮した製品開発を展開するために、これらの手法を統合した、グローバル製品アセスメント基準およびグローバル製品アセスメント実施ガイドラインを制定しました。2009年度はこの基準やガイドラインに沿って環境に配慮した製品の開発に着手しました。

#### 1) 運用手順

グローバル製品アセスメントは、製品の開発工程 (設計、試作、評価など) に製品アセスメント (設計段階、設計審査段階、新製品評価段階) を組み入れ、開発製品の商品化前までに実施します。客観的かつ責任ある製品アセスメントとするため、品質管理部門などによる第三者評価や目標がクリアできない場合のフォローアップを実施します。



※製品アセスメントの各段階では、必要に応じてフォローアップを実施する。

## 2) 評価項目

グローバル製品アセスメントの評価は、基準製品との比較による体積、質量や消費電力などの改善性を評価する基本項目と省資源、有害物質の削減や製造、物流、使用、廃棄における環境負荷削減の取り組みを評価する評価項目からなります。

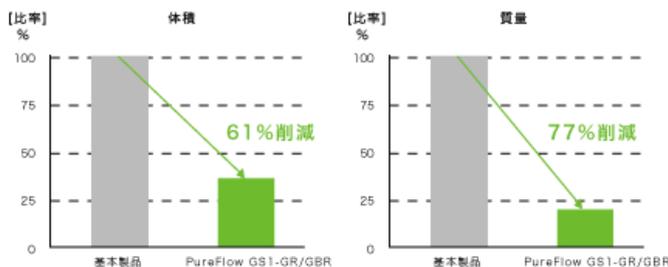
省資源化/製造時負荷削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>体積、質量の削減</li> <li>リユースやリサイクル可能な部材の採用</li> </ul>
	<p>機能拡張性、長寿命化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>取扱説明書への再生紙の使用</li> <li>消耗品の削減</li> <li>加工困難材の削減</li> <li>製造時廃棄物の削減</li> </ul>
有害物質削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>含有禁止物質の非含有</li> <li>製造時の使用禁止物質の不使用</li> <li>RoHS指令対象物質の削減</li> <li>その他有害物質の削減</li> </ul>
物流負荷削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>包装箱の体積、質量の削減</li> <li>包装材のリユースやリサイクル可能な材料の採用</li> <li>包装材の種類の削減</li> <li>包装用樹脂部品への材料名表示</li> <li>包装材の有害物質の削減</li> <li>無包装や通い箱の採用</li> </ul>
使用時負荷削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>動作時消費電力の低減</li> <li>待機モード時消費電力の低減</li> <li>使用時の騒音の低減</li> </ul>
廃棄時負荷削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>部品点数の削減</li> <li>リサイクル困難材料の削減</li> <li>ユニット構造の採用</li> <li>ねじ本数の削減</li> <li>一般工具による分離分解</li> <li>樹脂部品への材料名表示</li> <li>材料種類の削減，同一材料への統合</li> <li>電池のリサイクル表示</li> <li>WEEE指令対応</li> <li>中国版RoHS対応</li> </ul>

## 製品アセスメント事例

2009年度は国内アンリツグループの全開発製品の67%が省資源10%以上となり、目標の30%以上を大幅に達成しました。アンリツネットワークス(株)の高精度帯域制御装置「PureFlow GS1-GR/GBR」は、独自開発した高精度帯域制御エンジンと柔軟なパケット\*分類機能を持つ装置です。データ通信回線の帯域の効率化やテレビ会議などの統合ネットワーク環境における音声や映像などの通信品質を向上することができ、データセンター\*\*などに設置されます。従来機種より薄型となる1Uサイズ(1.75インチ=44.45mm)とすることで、データセンターの19インチラックへ効率よく収容できるように、小型化・軽量化を目指しました。ケース材料と構造、ネジ1本に至るまでの部品の徹底的な見直しを行い、小型化・軽量化を実現しました。これにより、基準製品と比較して体積を61%、質量を77%削減しました。

\* 通信回線の有効利用のために一定の大きさに分割した通信データ単位のこと。

\*\* 顧客のサーバーを預かり、インターネットへの接続回線や保守・運用サービスなどを提供する施設。



高精度帯域制御装置 PureFlow GS1-GR/GBR

## エコ製品制度

### 環境配慮型製品

アンリツグループでは、グローバル製品アセスメントの結果から、エクセレントエコ製品とエコ製品を環境配慮型製品と認定しています。

エクセレントエコ製品:

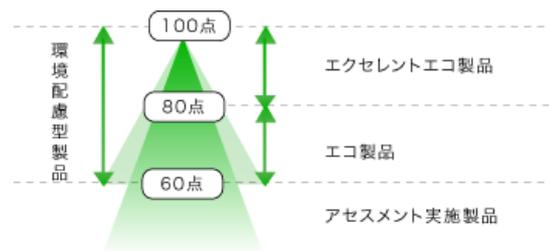
評価点が80点以上で、エクセレントエコ製品の条件を満たした製品

エコ製品:

評価点が60点以上で、エコ製品の条件を満たした製品

アセスメント実施製品:

アセスメント実施製品の条件を満たした製品



## エクセレントエコ製品の主な環境配慮基準

- 業界をリードする環境配慮性がある
- 製品に関する環境情報を開示できる
- 製法アセスメント（製造段階での評価）を実施している
- LCA(Life Cycle Assessment)を用いてCO<sub>2</sub>排出量を評価している
- 製品の事業主体および主要生産拠点は、環境マネジメントシステムを構築している

エクセレントエコ製品には、カタログなどにマークと製品に関する環境情報を併記しています。



## 2009年度に認定されたエクセレントエコ製品

- MT8820C ラジオコミュニケーションアナライザ：省電力
- MP2100A パートウェーブシリーズ：小型・軽量・省電力
- MS2830A シグナルアナライザ：省電力



## 更なる低消費電力化を実現

### MT8820Cラジオコミュニケーションアナライザ

アンリツ株式会社  
R&D統轄本部 第2商品開発部 主任  
田中 孝典



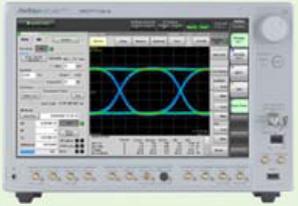
携帯電話の進化はとどまることなく、光ファイバー並みの高速・大容量通信を可能とする無線通信システム「LTE(Long Term Evolution)」の商用サービスが2010年にも日本やアメリカでも開始予定です。MT8820Cラジオコミュニケーションアナライザは、このLTEに対応した携帯電話端末やデータ通信カードの開発・製造で使用される計測器です。製造ラインの省スペース化を実現した従来製品の特徴を継承しつつ、開発当初から更なる低消費電力化の実現を目標に、使用する部品の厳選や回路設計に工夫を凝らしました。こうした取り組みにより、従来製品と比較して消費電力を26%削減することができました。



## 複数機能を搭載しながら小型化を実現

### MP2100Aパートウェーブシリーズ

アンリツ株式会社  
マーケティング本部  
商品企画センター 企画チーム2 主任  
西小原 匡則



近年、インターネットの普及拡大に伴い、光ファイバーを用いた光通信システムが企業から家庭にまで拡がりを見せています。光通信システムでは、光トランシーバモジュールや各種電気デバイスを組み込んで伝送しています。MP2100Aパートウェーブシリーズは、こうしたモジュールやデバイスの信号品質(波形、ビット誤り率など)を評価するための計測器です。複数機能を一筐体に集積しながら、小型化・軽量化・低消費電力化を実現するため、電源やCPU(情報処理部)まわりをはじめ、全ての回路や部品を見直すことにより、従来製品に比較し、体積47%、質量72%、消費電力72%の削減を達成することができました。



## 測定時間の短縮と省電力化を両立

### MS2830Aシグナルアナライザ

アンリツ株式会社  
R&D統轄本部 第1商品開発部  
東山 仁人



MS2830Aシグナルアナライザは、次世代携帯電話端末をはじめとする各種デジタル無線機器、電子部品の開発や製造ラインで利用される計測器です。測定時間の短縮と省電力化を両立するために従来製品のコア技術を継承するとともに省電力部品を採用し、部品点数も徹底的に削減しています。また、従来製品では標準搭載されている機能の一部をオプション化したことで、不必要な電力消費を抑制することができます。こうした取り組みにより、従来製品と比較し、測定処理能力を1.2倍高めるとともに、使用段階におけるCO<sub>2</sub>排出量を30%削減することができました。

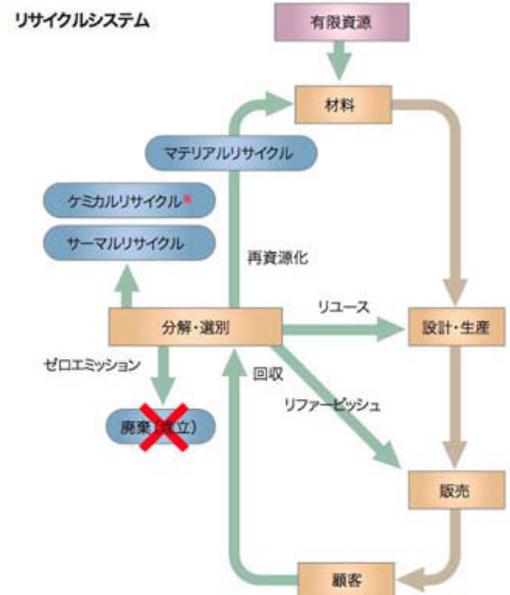
アンリツのエクセレント エコ製品

## 使用済み製品のリサイクル

### 環境配慮型製品

アンリツ(株)は、計測器業界に先駆けて2000年にグループ会社のアンリツ興産株式会社にリサイクルセンターを設立しました。2002年9月には産業廃棄物処分業許可を取得し、2003年度から業務を開始しています。2005年度からは使用済み製品のリユースを推進しました。廃棄物の分別を徹底し、リサイクルセンターから排出される廃棄物は、100%リサイクルされました。

また、デモンストレーションに使用した機器などの中から選りすぐったものを再生させたリファーマビリティ計測器の販売を行っています。「再生」といっても「生みの親」アンリツ(株)のもとで修理・校正を行った信頼性の高い製品であり、納入後1年間の保証がつきます。リファーマビリティ計測器は、日本国内の大学・教育機関を対象とし、グループ会社のアンリツ興産株式会社を販売代理店として販売を行っており、製品の長寿命化に貢献しています。





## 大学・研究機関のパートナーとして期待

長岡技術科学大学  
工学部・電気系電子デバイス・光波エレクトロニクス工学講座  
准教授  
**塩田 達俊 様**

2008年に長岡技術科学大学に着任し、先端光計測システム研究室を開設しました。超高速波形などに関する計測技術の研究を進めるために、光源や光センサ、パワーメータ、スペクトラムアナライザなど多数の計測機器を揃えなければならなかった私にとって、安リツ興産株式会社さまが提供しているリファーマピュリティ計測器は、非常に心強いサービスです。再生品であることから正規品に比べ廉価な価格で購入できます。しかも“安かろう、悪かろう”ではなく、1年間の品質保証が得られ、機能・性能にも信頼が置けます。また、リファーマピュリティ計測器は、本来なら廃棄される製品を使用するものであり、資源の有効利用による循環型社会形成にもつながる環境にやさしい商品です。

光技術は、情報通信にとどまらず、医療、位置情報・距離情報システムなどで、さまざまな分野での応用が期待されています。ところが、予算的には決して恵まれておらず、私自身、設備の維持・拡充に苦労しています。わたしたち研究者が求める計測器を用意するのは大変だと思いますが、大学・研究機関のパートナーとして今後もこの取り組みが継続されることを期待しています。

[▲ページ先頭へ戻る](#)

## サプライチェーンマネジメントの推進

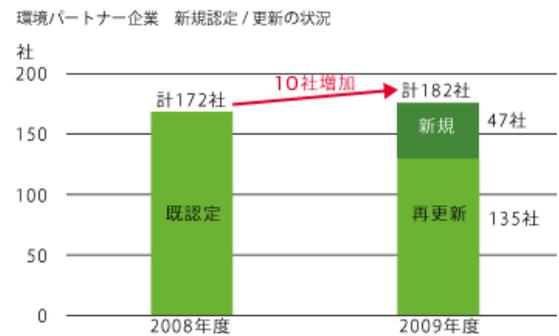
- CSRホーム
- CSR報告2010
- トップコミットメント
- CSRマネジメント
- CSRの考え方
- アンリツのCSR達成像
- 達成像1  
安全・安心で快適な社会構築への貢献
- 達成像2  
グローバル経済社会との調和
- 達成像3  
地球環境保護の推進
- 達成像4  
コミュニケーションの推進
- 2009年度の実績、  
2010年度の目標
- 事業概要
- 第三者意見  
第三者意見を受けて
- 編集方針

▶ エコマネジメント、エコマインド	▶ エコオフィス、エコファクトリー	▶ エコプロダクツ開発	▶ サプライチェーンマネジメントの推進
▶ アンリツグループ環境負荷マスパランス (09年度)	▶ サイト別環境データ集 (09年度)	▶ 環境会計 (09年度)	▶ 環境管理活動の歴史

環境に配慮した製品を提供するためには、製品を構成する部品や材料などの環境負荷が低減されていることが不可欠です。アンリツでは「グリーン調達ガイドライン」を定め、環境に配慮された部品や材料を優先的に調達するグリーン調達を全社的に取り組んでいます。

### グリーン調達

■EMS支援(環境パートナー制度)  
グリーン調達を行うためには、仕入先・協力会社(サプライヤ)自身の環境に対する取り組みも重要です。アンリツ(株)では、環境パートナー認定制度を設け、サプライヤの環境マネジメントシステム(EMS)の構築や製品アセスメントの実施状況について評価し、環境に積極的なサプライヤから環境に配慮した製品を優先的に調達するとともに、サプライヤの環境取り組みの推進を図っています。2009年度からは、製品含有化学物質管理体制の構築状況の評価を取り込み、サプライヤ評価の強化と効率化を図っています。サプライヤの評価は、AランクからCランクまでの3段階に分け、積極的に環境取り組みを推進しているAランクのサプライヤを環境パートナー企業として認定しています。また、B、Cランクと評価されたサプライヤに対しても、環境への取り組みを充実させるための協力支援を継続的に行っています。



■お取引先の皆さまへ  
アンリツグループでは、環境に配慮した製品を開発するために、「アンリツグループグリーン調達ガイドライン」を制定し、環境負荷の少ない部品や材料を優先的に購入するグリーン調達活動を推進しています。

[▲ページ先頭へ戻る](#)

## アンリツグループ環境負荷マスパランス

CSRホーム  
**CSR報告2010**  
 トップコミットメント  
 CSRマネジメント  
 CSRの考え方  
 アンリツのCSR達成像

達成像1  
 安全・安心で快適な社会構築への貢献

達成像2  
 グローバル経済社会との調和

達成像3  
 地球環境保護の推進

達成像4  
 コミュニケーションの推進

2009年度の実績、  
 2010年度の目標

事業概要  
 第三者意見  
 第三者意見を受けて  
 編集方針

▶ エコマネジメント、エコマインド

▶ エコオフィス、エコファクトリー

▶ エコプロダクツ開発

▶ サプライチェーン  
 マネジメントの推進

▶ アンリツグループ環境負荷  
 マスパランス(09年度)

▶ サイト別環境データ集  
 (09年度)

▶ 環境会計(09年度)

▶ 環境管理活動の歴史



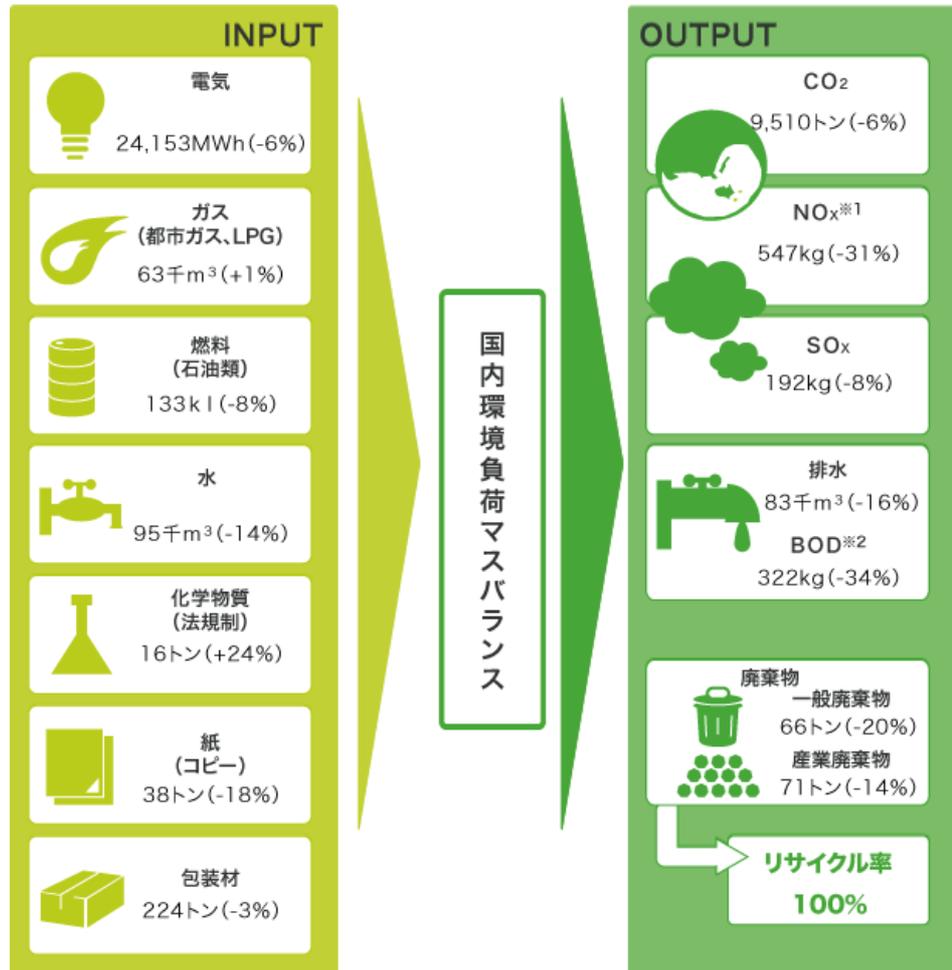
### 国内アンリツグループ環境負荷マスパランス(2009年度)

アンリツでは事業活動に伴う環境負荷や環境保全活動を貨幣単位・物量単位で数値化し、環境保全活動のさらなる効率化を図っています。また、それらを積極的に情報開示することで、環境に対する取り組みへの理解を深めていただけるよう努力しています。

#### 環境負荷マスパランス

国内アンリツグループ(厚木地区+棚沢地区+東北地区)の事業活動による環境負荷マスパランスを示します。( )内は2008年度比です。

環境負荷マスパランス：事業活動と環境負荷の関連性をより明確に示すために、外部から企業内に持ち込まれる物質を物質名と物量で把握・表記し、企業から外部へ排出された物質と物量を把握・表記する対照表により、環境負荷を表したものの。



※1：東北地区のボイラー稼働台数を通常の2台から1台に減らしたことにより、NO<sub>x</sub>が減少しました。

※2：厚木地区の汚水処理設備の運転条件、薬剤注入条件などの最適化を施したことにより水質がより向上し、BODが減少しました。

INPUT

電気：	工場・オフィスなどで使用する電力会社からの購入電力
ガス：	エネルギーとして使用する都市ガス
燃料：	エネルギーとして使用する重油、軽油
水：	水道水、地下水（再利用水を除く）
化学物質：	法規制を受ける化学物質（毒物、劇物、危険物、有機溶剤、特定化学物質）
紙：	工場・オフィスで使用するコピー紙、EDP用紙
包装材：	製品の包装・梱包材および物流時の梱包材

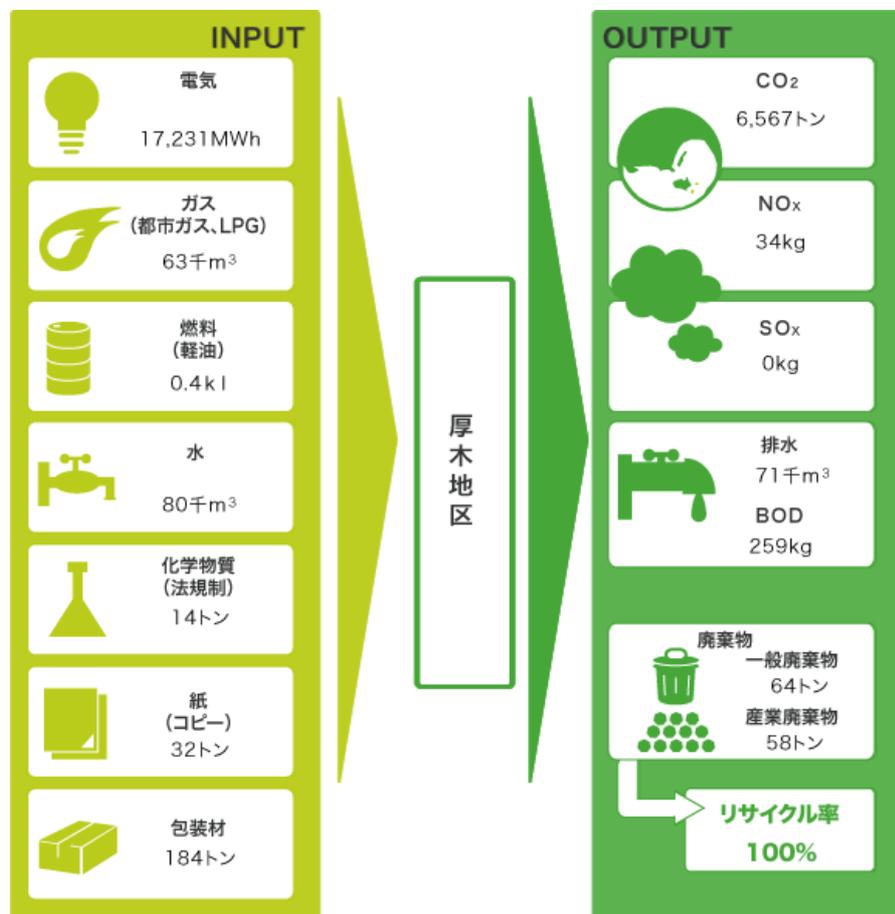
OUTPUT

CO <sub>2</sub> ：	電気、ガス、燃料の使用に伴って発生する二酸化炭素（電気の使用に伴って発生する二酸化炭素の排出係数は、電気事業連合会公表値（2008年度実績値）を使用しました）
NO <sub>x</sub> ：	ガス、燃料の使用に伴って発生する窒素酸化物
SO <sub>x</sub> ：	ガス、燃料の使用に伴って発生する硫黄酸化物
排水：	工場・オフィスの工程系排水および生活系排水
BOD：	生物化学的酸素要求量
一般廃棄物：	事業活動に伴って生じた産業廃棄物以外の廃棄物（厨芥物、紙くず、木くずなど）
産業廃棄物：	事業活動に伴って生じた廃棄物のうち汚泥、廃プラスチック類、廃酸、廃アルカリなど「廃棄物の処理および清掃に関する法律」に定められた廃棄物
リサイクル：	廃棄物を熱回収（サーマルリサイクル）、再生利用（マテリアルリサイクル）により、資材、原料または資源として用いること

 サイト別環境負荷マスパランス(2009年度)

アンリツ(厚木地区+棚沢地区+東北地区+アンリツリミテッド+アンリツカンパニー+アンリツA/S)の事業活動による環境負荷マスパランスを示します。

国内データ





棚沢地区



東北地区



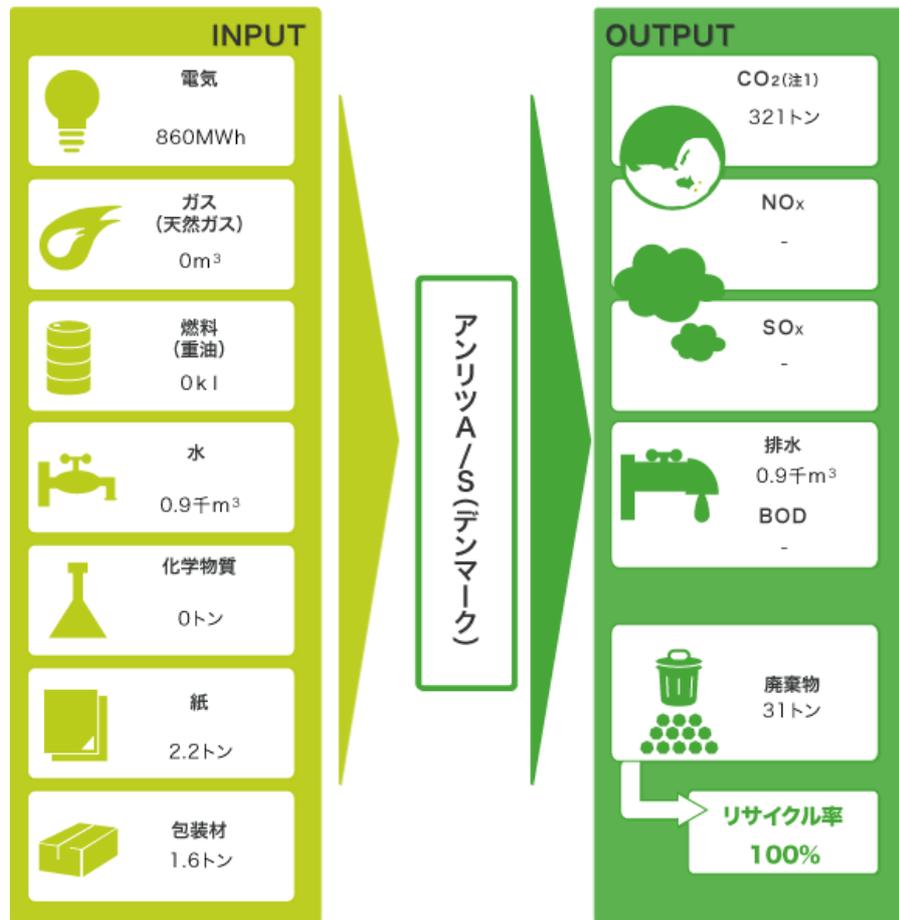


アンリツリミテッド(イギリス)



アンリツカンパニー(アメリカ)





注(1): CO<sub>2</sub>排出量は、国内外のサイトいずれも「地球温暖化対策の推進に関する法律」施行令(2006.3.29改正公布)の換算係数を用いて算定しました。但し、電気の使用によるCO<sub>2</sub>排出量は、電気事業連合会公表の換算係数(2008年度実績値)を使用して算定しました。

[▲ページ先頭へ戻る](#)

## サイト別環境データ集(09年度)

CSRホーム  
**CSR報告2010**  
 トップコミットメント  
 CSRマネジメント  
 CSRの考え方  
 アンリツのCSR達成像

達成像1  
 安全・安心で快適な社会構築への貢献

達成像2  
 グローバル経済社会との調和

達成像3  
 地球環境保護の推進

達成像4  
 コミュニケーションの推進

2009年度の実績、  
 2010年度の目標

事業概要  
 第三者意見  
 第三者意見を受けて  
 編集方針

▶ エコマネジメント、エコマインド

▶ エコオフィス、エコファクトリー

▶ エコプロダクツ開発

▶ サプライチェーン  
 マネジメントの推進

▶ アンリツグループ環境負荷  
 マスパランス(09年度)

▶ サイト別環境データ集  
 (09年度)

▶ 環境会計(09年度)

▶ 環境管理活動の歴史



### サイト別環境データ集(09年度)

#### 厚木地区

水質（公共下水道排出基準：法・厚木市条例）

項目	排出基準 (mg/l)		実測値 (mg/l)		
	規制値	自主管理基準	平均	最小	最大
pH	5.7-8.7	6.0-8.4	7.3	6.3	8.1
SS	300	120	8.4	2.0	26
BOD	300	180	6.7	1.0	21
ノルマルヘキサン 抽出物質	鉍物油	3	1.0	1.0	1.7
	動植物油	18	1.2	1.0	3.4
よう素消費量	220	90	1.4	1.0	3.5
ふっ素化合物	8	4.8	0.2	0.1	1.0
シアン化合物	1	0.4	0.01	0.01	0.02
全窒素	125	50	1.9	0.4	18
ほう素	10	4	0.1	0.1	0.1
全クロム	2	0.8	未測定*1		
溶解性鉄	10	4	0.07	0.05	0.13
銅	3	1.2	0.05	0.05	0.05
亜鉛	2	1.2	0.12	0.05	0.5
溶解性マンガン	1	0.4	未測定*1		
ニッケル含有物	1	0.6	0.05	0.05	0.06
鉛	0.1	0.06	0.01	0.01	0.01

\*1. 原材料として使用していないため、測定していません

騒音（神奈川県条例）

測定箇所	規制値 (dB)	自主管理基準 (dB)	実測値 (dB)
東側敷地境界線	70 (昼間)	68 (昼間)	54
西側敷地境界線			50
南側敷地境界線			55
北側敷地境界線			55

地下水

項目	環境基準値 (mg/l)	実測値 (mg/l)
トリクロロエチレン	0.03	0.011
テトラクロロエチレン*3	0.01	0.093
1,1,1-トリクロロエタン	1	0.0005未満
1,1-ジクロロエチレン	0.02	0.002未満
ジクロロメタン	0.02	*4
シス-1,2-ジクロロエチレン	0.04	0.023

\*3. テトラクロロエチレンは基準値を超過していますが、厚木地区における使用実績は有りません

\*4. 前年度結果が定量下限値(0.002mg/l)未満の為、測定せず

棚沢地区

水質（公共下水道排出基準：法・厚木市条例）

項目	排出基準 (mg/l)		実測値 (mg/l)		
	規制値	自主管理基準	平均	最小	最大
pH	5.7-8.7	6.0-8.4	7.19	7	7.9
SS	300	120	1	<1	1
BOD	300	180	0.78	<0.5	1.6
ノルマルヘキサン抽出物質	鉱物油	5	3	0.6	2.5
	動植物油	30	18	*2	
요소消費量	220	90	1.04	0.5	3.3
ふっ素化合物	8	4.8	0.8	0.28	1.0
シアン化合物	1	0.4	0.01	0.01	0.01
全窒素	125	50	4.7	1.7	17
ほう素	10	4	0.1	0.1	0.1
全クロム	2	0.8	0.05	0.05	0.05
溶解性鉄	10	4	0.06	0.05	0.16
銅	3	1.2	0.05	0.05	0.05
亜鉛	2	1.2	0.02	0.01	0.18
溶解性マンガン	1	0.4	0.035	0.02	0.2
ニッケル含有物	1	0.6	0.05	0.05	0.05
鉛	0.1	0.06	0.01	0.01	0.01

\*2. 鉱物油が自主基準値を超過した時測定

騒音（神奈川県条例）

測定箇所	規制値 (dB)	自主管理基準 (dB)	実測値 (dB)
東側敷地境界線	70 (昼間)	68 (昼間)	56
西側敷地境界線			50
南側敷地境界線			46
北側敷地境界線			53

## 水質（水質汚濁防止法排出基準：法・福島県条例）

項目	排出基準 (mg/l)		実測値 (mg/l)		
	規制値	自主管理基準	平均	最小	最大
pH	5.8-8.6	6.0-8.4	7.2	7.1	7.4
SS	70	30	3.3	1.0	7.7
BOD	40	20	5.8	2.0	12.0
溶解性鉄*5	10	4	0.10	-	-
銅*5	2	0.8	0.03	-	-
亜鉛*5	2	1.2	0.05	-	-
ニッケル化合物*5	2	0.8	定量下限値 (0.01mg/l) 未満	-	-
鉛*5	0.1	0.08	定量下限値 (0.05mg/l) 未満	-	-
大腸菌群数 (個/m <sup>3</sup> )	3000	2400	0	0	0

\*5. 測定頻度が1回/年のため、最小、最大値は記載しておりません

## 騒音（福島県条例）

測定箇所	規制値 (dB)	自主管理基準 (dB)	実測値 (dB)
南側1敷地境界線	75 (昼間)	74 (昼間)	61
南側2敷地境界線			62
東側敷地境界線			54
西側敷地境界線			50

## 地下水

項目	環境基準値 (mg/l)	実測値 (mg/l)
トリクロロエチレン	0.03	定量下限値 (0.002mg/l) 未満
テトラクロロエチレン	0.01	定量下限値 (0.0005mg/l) 未満
1,1,1-トリクロロエタン	1	定量下限値 (0.0005mg/l) 未満
1,1-ジクロロエチレン	0.02	定量下限値 (0.002mg/l) 未満
四塩化炭素	0.002	定量下限値 (0.0002mg/l) 未満
シス-1,2-ジクロロエチレン	0.04	定量下限値 (0.004mg/l) 未満

## 大気（大気汚染防止法、福島県条例）

項目	排出基準		実測値
	規制値	自主管理基準	
ばいじん (g/m <sup>3</sup> N)	0.3	0.18	定量下限値 (0.005mg/l) 未満
硫黄酸化物 (m <sup>3</sup> N/h)	4.37	2.63	0.08
窒素酸化物 (ppm)	180	170	95

[▲ページ先頭へ戻る](#)

環境会計(09年度)

- CSRホーム
- CSR報告2010
- トップコミットメント
- CSRマネジメント
- CSRの考え方
- アンリツのCSR達成像
- 達成像1  
安全・安心で快適な社会構築への貢献
- 達成像2  
グローバル経済社会との調和
- 達成像3  
地球環境保護の推進
- 達成像4  
コミュニケーションの推進
- 2009年度の実績、  
2010年度の目標
- 事業概要
- 第三者意見  
第三者意見を受けて
- 編集方針

- ▶ エコマネジメント、エコマインド
- ▶ エコオフィス、エコファクトリー
- ▶ エコプロダクツ開発
- ▶ サプライチェーン  
マネジメントの推進
- ▶ アンリツグループ環境負  
荷マスパランス(09年度)
- ▶ サイト別環境データ集  
(09年度)
- ▶ 環境会計(09年度)
- ▶ 環境管理活動の歴史

環境会計：2009年度の実績

世界同時不況による景気後退の局面のなかで、環境保全コストを抑制せざるを得ない状況もあり、2009年度の費用は対前年度比 9.9%減少しました。地球温暖化防止については、老朽化した空調設備を省エネタイプに更新したことによる省エネ効果、毎年継続している省エネ活動(クールビズ、ウォームビズ活動など)、所定外労働時間の削減強化などにより、エネルギー使用によるCO<sub>2</sub>排出削減効果は2008年度より高くなりました。

- ・集計範囲：国内アンリツグループ
- ・対象期間：2009年4月1日から2010年3月31日

環境保全コスト				効果 <sup>*1</sup>		
大分類	中分類	投資額 (百万円)	費用額 (百万円)	経済効果 (百万円)	物量削減効果	
事業エリア 内 コスト	公害防止コスト (リスク対策含む)		0 [0]	12.3 [9.9]	0 [0.0]	
	地球環境保全 コスト	温暖化防止	5.1 [ 2.4 ]	5.8 [ 1.4 ]	51.0 [48.1]	1,897 (ト)・CO <sub>2</sub> [1,747 (ト)・CO <sub>2</sub> ]
		資源循環コスト	資源循環/活用活動		69.3 [ 83.1 ]	0.1 [ 4.2 ]
廃棄物処理費			28.9 [ 32.8 ]	10.1 [ 18.7 ]		
上下流 コスト	グリーン購入/調達コスト			26.0 [ 27.6 ]	( 26.3 [ 26.6 ] ) <sup>*1</sup>	( 653 (ト)・CO <sub>2</sub> ) [726 (ト)・CO <sub>2</sub> ] ) <sup>*1</sup>
	環境配慮型製品設計			29.8 [ 23.7 ]		
	製品・容器包装等リサイクル,回収,処理			1.1 [ 0.6 ]		
管理活動 コスト	環境教育/人材育成			13.3 [13.2]		
	EMS運用・維持、内部監査			43.7 [ 49.0 ]		
	環境負荷の監視測定コスト			18.3 [ 17.4 ]		
	環境保全対策組織の人的費			12.6 [23.7]		
	緑化整備・維持			8.8 [ 9.1 ]		
社会活動 コスト	地域・環境保全団体等への支援			1.1 [ 1.4 ]		
	情報公開			3.2 [ 10.1 ]		
研究開発 コスト	環境負荷低減のための研究開発			2.9 [ 4.4 ]		
環境損傷対 応 コスト	環境損傷対応のためのコスト			0 [ 0 ]		
	合計		5.1 [2.4]	277.1 [ 307.4 ]	61.2 [71.0] (26.3 [26.6]) <sup>*1</sup>	
	2008年度比		212.5%	-9.9%	-13.8%	

\*1:製品の使用時における環境負荷抑制効果(みなし効果)削減電力:1,750MWH [ 1,770MWH ]

\*2: [ ]内の数値は、2008年度実績

## アンリツ環境管理活動の歴史

[CSRホーム](#)[CSR報告2010](#)[トップコミットメント](#)[CSRマネジメント](#)[CSRの考え方](#)[アンリツのCSR達成像](#)[達成像1](#)[安全・安心で快適な社会構築への貢献](#)[達成像2](#)[グローバル経済社会との調和](#)[達成像3](#)[地球環境保護の推進](#)[達成像4](#)[コミュニケーションの推進](#)[2009年度の実績、](#)[2010年度の目標](#)[事業概要](#)[第三者意見](#)[第三者意見を受けて](#)[編集方針](#)[▶ エコマネジメント、エコマインド](#)[▶ エコオフィス、エコファクトリー](#)[▶ エコプロダクツ開発](#)[▶ サプライチェーン  
マネジメントの推進](#)[▶ アンリツグループ環境負  
荷マスパランス\(09年度\)](#)[▶ サイト別環境データ集  
\(09年度\)](#)[▶ 環境会計\(09年度\)](#)[▶ 環境管理活動の歴史](#)

## アンリツ環境管理活動の歴史

- 2009年 日本経団連生物多様性宣言推進パートナーズへの参加
- 2008年 ISO14001の認証取得範囲をアンリツ(株)営業拠点に拡大
- 2007年 「平成19年度かながわ地球環境賞」を受賞(厚木地区)  
Anritsu Company(アメリカ)でISO14001認証取得
- 2006年 アンリツ・カンパニー(USA)がカルフォルニア州モーガンヒル市から2006 Excellence Awardを受賞  
厚木地区廃棄物対策協議会会長賞受賞
- 2005年 東北アンリツ(株)が福島県主催のゼロエミッション活動提案コンクールの事業部門において優秀賞  
を受賞  
第1回グローバル環境管理会議をアンリツ・リミテッド(イギリス)で開催
- 2004年 『アンリツグループグリーン調達ガイドライン』に改訂  
国内アンリツグループの全開発・製造拠点でゼロエミッション達成
- 2003年 ISO14001の登録範囲を統合し、棚沢地区、厚木地区のグループ会社および東北アンリツ(株)を含める
- 2002年 社内の環境関連部門(環境管理部、環境技術部)を統合し、環境推進センターを設置  
ISO14001の登録範囲を拡大し、棚沢地区および厚木地区のグループ会社を含める  
リサイクルセンター産業廃棄物処分の免許取得
- 2000年 アンリツ・リミテッド(イギリス)でISO14001認証取得  
アンリツエコ製品制度の制定  
リサイクルセンター設立
- 1999年 『アンリツグリーン調達ガイドライン-製品開発用-』制定  
東北アンリツ(株)でISO14001認証取得
- 1998年 厚木事業所でISO14001認証取得  
関東通商産業局長から緑化優良工場として表彰  
技術本部に環境技術グループ設置  
鉛フリーはんだ委員会発足
- 1997年 環境方針制定
- 1996年 グリーン購入ネットワークに加入  
アンリツ環境マニュアル制定  
厚木事業所で大防法対象特定施設(灯油ボイラー)廃止
- 1995年 厚木地区廃棄物対策協議会会長賞受賞
- 1994年 厚木ZP委員会を厚木環境管理委員会に改組  
製品アセスメント委員会発足
- 1993年 オゾン層破壊物質全廃(除く冷媒、消火器)  
環境管理委員会発足  
ニカド電池規制対応  
環境理念および環境管理システム規程の制定  
臭素系難燃剤の調査と対応  
エネルギー対策専門委員会発足
- 1992年 環境保全設計調査WG発足
- 1991年 (財)日本緑化センター会長賞受賞

1990年	化学物質の購入・給配の一元化開始 厚木事業所総務部に環境管理課設置
1987年	厚木事業所で工程系配管の架空配管整備
1981年	神奈川県県央地区行政センターから環境保全功労表彰を受ける
1980年	神奈川県緑化モデル工場として表彰される
1979年	神奈川県環境保全協議会から環境保全優良工場として表彰される
1978年	雨水以外の排水を公共下水道に接続（厚木事業所）
1974年	厨房排水処理施設として活性汚泥処理方式施設導入
1970年	ZP（Zero Pollution）委員会発足
1962年	化工工場開設に伴い排水処理施設設置（厚木事業所）

[▲ページ先頭へ戻る](#)

## 達成像4 コミュニケーションの推進

- CSRホーム
- CSR報告2010
- トップコミットメント
- CSRマネジメント
- CSRの考え方
- アンリツのCSR達成像
- 達成像1  
安全・安心で快適な社会構築への貢献
- 達成像2  
グローバル経済社会との調和
- 達成像3  
地球環境保護の推進
- 達成像4  
コミュニケーションの推進**
- 2009年度の実績、  
2010年度の目標
- 事業概要
- 第三者意見  
第三者意見を受けて
- 編集方針



### 達成像4 コミュニケーションの推進

アンリツは、事業活動全体を通して、ステークホルダーへの積極的な情報開示と対話を行い、良好なパートナーシップを構築します。

④ ステークホルダーとの  
コミュニケーション

[▲ページ先頭へ戻る](#)

## ステークホルダーとのコミュニケーション

- CSRホーム
- CSR報告2010
- トップコミットメント
- CSRマネジメント
- CSRの考え方
- アンリツのCSR達成像
- 達成像1  
安全・安心で快適な社会構築への貢献
- 達成像2  
グローバル経済社会との調和
- 達成像3  
地球環境保護の推進
- 達成像4  
コミュニケーションの推進
- 2009年度の実績、  
2010年度の目標
- 事業概要
- 第三者意見  
第三者意見を受けて
- 編集方針


 ステークホルダーとの  
コミュニケーション

## お客さま

アンリツは、お客さまに対するテクニカルサポートやクレームなどへの迅速な対応を重視しています。お客さまに安全と安心を提供できるよう、将来を見据えた戦略的なサポート体制およびグローバルな情報共有体制の構築を推進しています。

[お客さまへのサービス](#)

## 株主・投資家とのコミュニケーション

株主・投資家の皆さまのニーズへの確かな対応、いただいたご意見を事業活動やIR活動の改善に役立てるために、双方向のコミュニケーションに努めながら積極的な情報開示を行っています。

## ■ 株主の構成

[株式・社債・格付情報](#)

## ■ アンリツ(株)のIR(投資家向け広報)活動

アンリツ(株)は株主・投資家とのコミュニケーションを通して、企業価値を適正に株価や株主還元へ反映させ、高い株主満足度の実現を目指しています。そのために、コーポレートコミュニケーション部IR推進チームが主体となり、『正しい情報を、その内容や開示環境の良し悪しに関わらず、関連法規に従い、誠意ある対応をもって公正かつ積極的に開示する』ことを方針として定め、国内外機関投資家への説明活動や個人投資家向け説明会への参加、株主懇談会の開催、アニュアルレポートや事業報告書等の各種刊行物の発行、ウェブサイトを通じた適時情報開示など、多彩なIR活動を実施しています。

[投資家のみなさまへ](#)

## ■ 個人投資家向けIR活動の強化



Anritsu

アンリツ(株)は一般消費者とは直接の接点がない事業をグローバルに展開しており、その事業構造や収益を創造する仕組み、業績に影響を与える要因を株主の皆さまに正しくご理解いただくことが非常に重要だと考えています。そこで、国内外の機関投資家の皆さまへの継続的な情報開示に加え、株主・国内個人投資家の皆さまとのコミュニケーションを積極的に行っています。具体的には、株主総会に引き続いて株主懇談会を開催し、社長の経営戦略説明や製品展示ルームを活用した株主さまと経営層との対面でのコミュニケーションを行いました。また、個人投資家向け説明会に参加し、社長による会社説明や個人投資家の皆さまとの対面によるご説明やアンケートを実施しました。アニュアルレポート2009では、アンリツのビジネスモデル、中期的な方向性、成長が期待できるコビジネスなどをわかりやすく紹介しました。コミュニケーションの中で頂戴したご意見やアンケート内容を分析し、開示ニーズの高い事業活動や経営戦略などを中心に説明会資料の充実を図りました。

[アニュアルレポート](#)

## ■ 外部評価

アンリツ(株)は、モーニングスター株式会社によるMS-SRI「モーニングスター社会的責任投資株価指数」の構成銘柄に選定されている他、さまざまなSRIファンドに組み込まれています。

## 取引先さま

取引先さまとの信頼関係を強化し、お互いの成長につなげていくことが重要と考えています。取引先さまの参画により強固なパートナーシップを構築していくこと、さらにサプライチェーン全体で社会の期待・要請に答えていくことを重視しています。

**コラム：提案を通し社会に貢献するパートナーとして** 丸文株式会社 営業第2本部 営業第2部 第1課 佐々木 滋正 様

## 社員

グローバルな事業展開および働き方の多様化に伴ない、人権の尊重と多様性の推進はますます重要になっています。人材の採用や、組織内のコミュニケーション活性化の観点からも、多様な人材が働きやすい制度・職場環境の整備を重視しています。

**コラム：一段上へ上がるために日々勉強** アンリツ株式会社 R&D統轄本部第2商品開発部 林 維尊

2009年度の実績、2010年度の目標

- CSRホーム
- CSR報告2010
- トップコミットメント
- CSRマネジメント
- CSRの考え方
- アンリツのCSR達成像
- 達成像1  
安全・安心で快適な社会構築への貢献
- 達成像2  
グローバル経済社会との調和
- 達成像3  
地球環境保護の推進
- 達成像4  
コミュニケーションの推進
- 2009年度の実績、2010年度の目標
- 事業概要
- 第三者意見
- 第三者意見を受けて
- 編集方針

2009年度の実績、2010年度の目標

2009年度の目標・実績と2010年度の目標

項目	2009年度目標	2009年度実績	達成度	2010年度目標
【達成像1】 安全・安心で 快適な社会構築への貢献	お客様へのサービス	①サービスレベル向上達成率の向上 ②グローバルカスタマーサポート満足度の向上 ③地域ごとの顧客への対応体制の強化	①達成率95.0%向上達成率95.0% ②達成率95.0%向上達成率95.0% ③達成率95.0%向上達成率95.0%	①サービスレベル向上達成率の向上 ②グローバルカスタマーサポート満足度の向上 ③地域ごとの顧客への対応体制の強化
	企業アソシエートの健全な発展	2009年度中に具体的な取り組みを計画	①グローバルアソシエートの健康診断の実施率向上 ②グローバルアソシエートの健康診断の実施率向上 ③グローバルアソシエートの健康診断の実施率向上	①グローバルアソシエートの健康診断の実施率向上 ②グローバルアソシエートの健康診断の実施率向上 ③グローバルアソシエートの健康診断の実施率向上
【達成像2】 グローバル経済社会との調和	コンプライアンスの徹底	①倫理規定の徹底 ②不正行為の防止 ③不正行為の防止	①達成率95.0%向上達成率95.0% ②達成率95.0%向上達成率95.0% ③達成率95.0%向上達成率95.0%	①倫理規定の徹底 ②不正行為の防止 ③不正行為の防止
	リスクマネジメントの徹底	①リスクマネジメントの徹底 ②リスクマネジメントの徹底 ③リスクマネジメントの徹底	①達成率95.0%向上達成率95.0% ②達成率95.0%向上達成率95.0% ③達成率95.0%向上達成率95.0%	①リスクマネジメントの徹底 ②リスクマネジメントの徹底 ③リスクマネジメントの徹底
【達成像3】 地球環境保護の推進	環境保護の推進	①環境保護の推進 ②環境保護の推進 ③環境保護の推進	①達成率95.0%向上達成率95.0% ②達成率95.0%向上達成率95.0% ③達成率95.0%向上達成率95.0%	①環境保護の推進 ②環境保護の推進 ③環境保護の推進
	社会貢献の推進	①社会貢献の推進 ②社会貢献の推進 ③社会貢献の推進	①達成率95.0%向上達成率95.0% ②達成率95.0%向上達成率95.0% ③達成率95.0%向上達成率95.0%	①社会貢献の推進 ②社会貢献の推進 ③社会貢献の推進
【達成像4】 コミュニケーションの推進	コミュニケーションの推進	①コミュニケーションの推進 ②コミュニケーションの推進 ③コミュニケーションの推進	①達成率95.0%向上達成率95.0% ②達成率95.0%向上達成率95.0% ③達成率95.0%向上達成率95.0%	①コミュニケーションの推進 ②コミュニケーションの推進 ③コミュニケーションの推進
	グローバル経済社会との調和	①グローバル経済社会との調和 ②グローバル経済社会との調和 ③グローバル経済社会との調和	①達成率95.0%向上達成率95.0% ②達成率95.0%向上達成率95.0% ③達成率95.0%向上達成率95.0%	①グローバル経済社会との調和 ②グローバル経済社会との調和 ③グローバル経済社会との調和

詳細をご覧になる場合はこちらを開いてください。(PDF)

▲ページ先頭へ戻る

事業概要

- CSRホーム
- CSR報告2010
- トップコミットメント
- CSRマネジメント
- CSRの考え方
- アンリツのCSR達成像
- 達成像1  
安全・安心で快適な社会構築への貢献
- 達成像2  
グローバル経済社会との調和
- 達成像3  
地球環境保護の推進
- 達成像4  
コミュニケーションの推進
- 2009年度の実績、  
2010年度の目標
- 事業概要**
- 第三者意見  
第三者意見を受けて
- 編集方針

事業概要

アンリツは、進化を続ける情報通信の分野で、各種通信システムやサービス・アプリケーションの開発、品質保証に欠かせない計測器を提供しています。110年を超える歴史を通して蓄積してきたソリューションは、携帯電話からのWebアクセスや音楽ダウンロード、テレビ会議や動画配信、デジタル放送などさまざまなサービスを支えています。また、IP通信機器や食品・医薬品用異物検出機や重量選別機、携帯電話、デジタルカメラなど各種デジタル製品用精密計測機器なども提供。幅広い分野で、安全・安心で快適な社会づくりを支えています。

**事業概要**

## 毎日の生活につながる アンリツグループ

はかる、みまもる、ささえる。  
アンリツは、情報通信・医療監視・食品などのさまざまな分野で、皆さまの暮らしやビジネスを支え、安全・安心で快適な社会づくりに貢献しています。

**計測事業**

- 1 携帯電話をはかる  
携帯電話の動作・性能や電波ネットワークの運用・保守で電波や電圧をはかり、正常に運営できるかどうかを調べます。
- 2 ひかりをはかる  
ファイバー光ケーブルの伝送品質を高精度に測定できる計測器を提供しています。
- 3 地上デジタル放送をはかる  
地上デジタル放送の電波状況をはかり、正確に受信できるかどうかを調べます。
- 4 車ををはかる  
自動車にカーナビ、ETC、タイヤ空気圧監視システムなどのワイヤレスアンテナシステムやアンテナの設置場所が最適化されています。

**情報通信事業**

- 1 ネットワークをささえる  
通信ネットワークを駆け回るアーチの交通整理をし、通信品質を高めます。  
(インフラネットワーク株式会社)
- 2 交通機関や河川をみまもる  
道路や河川の水位をリアルタイムに監視できる画像配信システムを提供しています。  
(インフラネットワーク株式会社)

**デバイス事業・精密計測事業**

- 1 ひかりをはかる  
体内撮影などに使われるCCD(撮像素子)には、アンリツの高精度デバイスが標準として採用されています。  
(インフラネットワーク株式会社)
- 2 ひかりをつくる  
高ファイバー伝送帯域帯域の通信増強や映像伝送にはアンリツの高精度デバイスが組み込まれています。  
(インフラネットワーク株式会社)
- 3 デジタルカメラをはかる  
デジタルカメラなどの撮像素子の製造工程で、アンリツが最先端の検査装置を提供しています。また、製造工程でアンリツの高精度デバイスが組み込まれています。  
(インフラネットワーク株式会社)

**医療監視事業**

- 1 食べものをはかる  
食品や医薬品の製造工程で、食品や医薬品の品質を高精度に測定できる計測器を提供しています。  
(インフラネットワーク株式会社)

図を拡大する (PDF)

▲ ページ先頭へ戻る

## 第三者意見、第三者意見を受けて

[CSRホーム](#)[CSR報告2010](#)[トップコミットメント](#)[CSRマネジメント](#)[CSRの考え方](#)[アンリツのCSR達成像](#)[達成像1](#)[安全・安心で快適な社会構築への貢献](#)[達成像2](#)[グローバル経済社会との調和](#)[達成像3](#)[地球環境保護の推進](#)[達成像4](#)[コミュニケーションの推進](#)[2009年度の実績、](#)[2010年度の目標](#)[事業概要](#)[第三者意見](#)[第三者意見を受けて](#)[編集方針](#)

## 第三者意見

企業の魅力というものは、企業がどのような意思をもって、将来の目指す姿をどのように描ききって、それに向けて今がどのような状況であるか、その目指す姿に向けた実行力はどうか、ということが伝わってきて、評価することができるように思います。

まず、社長メッセージから明確な意思が感じとれるか、についてです。技術進歩が非常に急速な情報通信業界に属するアンリツとして、「破壊と創造」の意としての「イノベーション」こそが利益ある持続的成長にとって非常に重要なキーファクターであるとするメッセージを、受けとめることができました。橋本新社長さまご就任直後に経営理念、経営ビジョン、経営方針をただちに改訂され、そこにおいてイノベーションが強調されていることから明らかです。

次に将来の目指す姿についてです。報告が達成像によって構成されていることから、志向についてしっかりと伝わってきました。当年度はダイジェスト版においても環境面などでパフォーマンスデータの開示が見られ、昨年度より具体性を持った報告となっていることも評価できます。しかしながら達成像のレベル感について理解する内容として、イノベーションがキーファクターであるとするなら、対応するキーパフォーマンス指標は何であり、そこでの達成レベルはどこにあるでしょう。

続いて、達成像に向けての今がどのような状況であるか、さらにその実行の力強さについてはどうでしょう。達成像ごとに分類された実際の取り組み記述は、熱意が伝わってくる立派な内容を多く含むものであり、アンリツの今の活動レベルの高さを理解することができるように思います。特にキーファクターに関連した達成像1では、アンリツならではの高度な技術力によって、情報化社会を様々な場面で下支えし、社会へ貢献している姿を理解することができました。しかし、目指している達成像へ向けた距離感と、その達成に向けた実行力の確かさについて、やはりよく理解することができません。達成像ごとにいくつもある目標と実績の報告でなく、このキーパフォーマンス指標をクリアすれば残りの全体も大きな改革に向かうといったような、キーファクターに関連した指標が提示され、その指標達成に向け全社員が一丸となって取り組んでいる状況や、確かな実行力についての報告がなされるならば、アンリツの魅力をより一層理解することができるように思います。

SUSA  
Sustainability Accounting Co., Ltd.株式会社サステナビリティ会計事務所  
代表取締役 福島 隆史

## 第三者意見を受けて

昨年ご指摘を受けた「12の重要課題の更なる絞込み」については、2009年度に5項目への絞込みを実施しました。また、2010年度は、改訂した経営理念、経営ビジョン、経営方針をCSR活動に盛り込み、中期経営計画(GLP2012)のCSR戦略として策定し、活動を開始しました。今年ご指摘いただいた「キーファクターであるイノベーションに対応するキーパフォーマンス指標の設定と達成レベルの報告の重要性」は、新たな視点からの課題であり、今年度のCSR活動に反映させてまいります。今後も福島さまからの指摘事項やステークホルダーの皆さまからのご意見を真摯に受け止め、社会から信頼され期待される企業として持続可能な社会に貢献していく所存ですので、今後ともご支援をお願い申し上げます。

アンリツ株式会社  
取締役 常務執行役員  
山口 重久[▲ページ先頭へ戻る](#)

## 編集方針

[CSRホーム](#)[CSR報告2010](#)[トップコミットメント](#)[CSRマネジメント](#)[CSRの考え方](#)[アンリツのCSR達成像](#)[達成像1](#)[安全・安心で快適な社会構築への貢献](#)[達成像2](#)[グローバル経済社会との調和](#)[達成像3](#)[地球環境保護の推進](#)[達成像4](#)[コミュニケーションの推進](#)[2009年度の実績、](#)[2010年度の目標](#)[事業概要](#)[第三者意見](#)[第三者意見を受けて](#)[編集方針](#)

## 編集方針

今回(2010年版)も昨年に引き続きアンリツのCSR活動に関する情報は、ウェブサイトで詳細を、PDFでダイジェストを報告します。ダイジェスト版では、『アンリツCSR活動のあるべき姿(達成像)』ごとに特にお伝えしたい活動について分かりやすく報告することを基本としました。ウェブサイトでは、重要性測定により導き出された12の重要課題を達成像ごとに整理し、それぞれの具体的な活動状況を掲載することで、より多くのステークホルダーの皆さまにお伝えすることに努めました。

## 参考としたガイドライン

GRI「サステナビリティ・レポートガイドライン 2006」

## 活動報告対象期間

2009年4月1日～2010年3月31日

(一部には、対象期間前後の活動内容も含まれます)

## 活動報告対象組織

報告内容については、項目によりアンリツ(株)のみの場合と、アンリツグループ会社を含めている場合があります。

以下のルールで区別しています。

「アンリツ」または「アンリツグループ」

記事内容がアンリツ(株)およびグループ会社全体の場合

「アンリツ(株)」

記事内容がアンリツ(株)単体の場合

「グループ会社」

記事内容がグループ会社またはその一部の場合

## 公開日

2010年7月30日

[▲ページ先頭へ戻る](#)